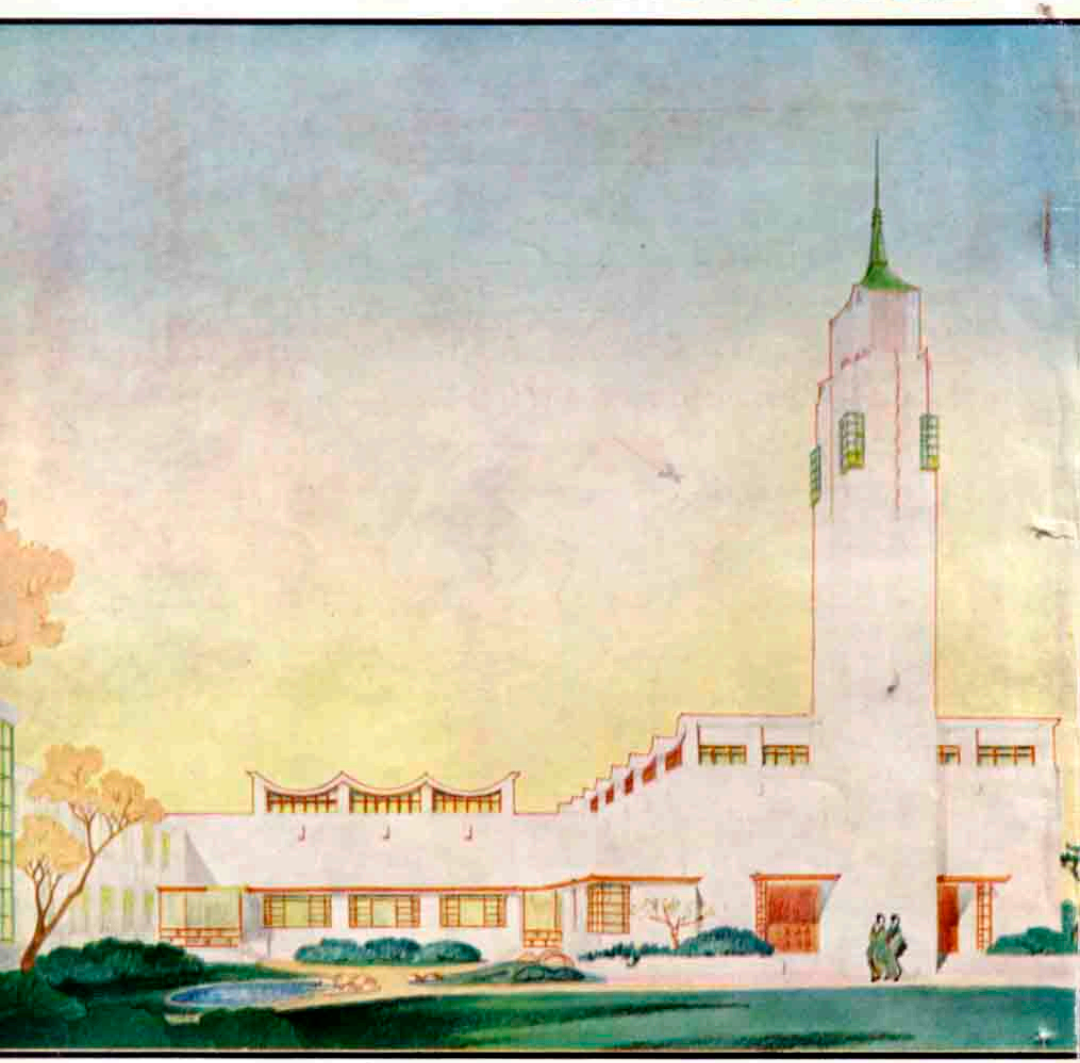
# 聖徒の道

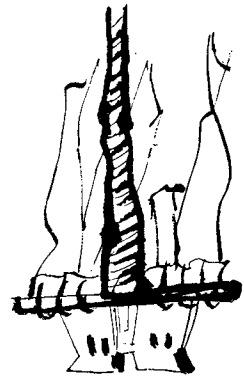
SEITO-NO-MICHI

一九五八年三月十七日第三種郵便物
認可（毎月一回一日発行）
第六巻第九号　一九六二年九月一日
発行



9 1962

末日聖徒イエス・キリスト教会



**The Seito no Michi**

**September 1962 Volume 6, Number 9**

**In this Issue**

A Prophet's Voice: The Great Cause of MIA. ··· President David O. McKey···513

President's Message ····· President Dwayne N. Andersen···518

Mission Mother's Message····· Sister Peggy Huish Andersen···521

Your Question: Prophets–Keys–Priesthood. ··· President Joseph Fielding Smith···524

Mormon Doctrine (33) : The Book of Mormon. (2) ····· Brother Tatsui Sato···527

MIA in the Missions ····· Brother John G. Kinnear···531

Branch News ·····536

Matsumoto, Tokyo South, Nishinomiya, Nagoya,
Otaru, Sendai.

Photographic Feature: Inside Views of The Idaho Temple. ·····544

A Letter to an Investigator. ·····548

Design approved for the New Chapel of Tokyo. ·····550

Church Articles ·····551

Sunday School Guide for J. S. S. Children (For October)
MIA Leader (for October)

Aaronic Priesthood : Branch Teaching Lesson (for September) ·····559

Essentials in Church History (33) ····· President Joseph Fielding Smith···560

Relief Society Lessons ·····564

Theology—Socical Science—Visiting Teacher Message
Work Meeting

Mission Headquarter News·····575

GOSPEL IN ENGLISH (for Studying Gospel in English) ·····576

# 聖　徒　の　道

第 6 巻
第 9 号

9 月号

# 目次

聖徒の道　一九六二年九月号


予言者のことば
MIAの偉大な目的　大管長　デビド・O・マッケイ……513
伝道部長メッセージ　ダワエン・N・アンダーセン……518
伝道部長夫人メッセージ　ペギー・ヒュイン・アンダーセン……521

質疑応答
予言者と鍵と神権について　解答者　ジョセフ・フィールディング・スミス長老……524

モルモンの教義（三十二）
モルモン経（その二）　佐藤龍猪……527

東京中央教会堂建築の承認が与えられた……550
伝道部に於けるMIA……531
求道者のみなさんへ「ある求道者への手紙」……548

末日聖徒イエスキリスト教会歴史粋
ジョセフ・フィールディング・スミス長老……560

子供の日曜学校ガイド　十月用……551

**僕と私のタラント**

MIAリーダー……554

練習の讃美歌……535

**アロン神権者用**

ブランチ・ティーチング・レッスン　九月用……559

**扶助協会レッスン**……564

神学、社会科学、訪問教師メッセージ、仕事会

英会話用テキスト—英語の福音……576

**特集記事**

**神殿を訪ねて**

**アイダホ神殿の内部をみる**……544

支部だより—松本、東京南、西の宮、小樽、名古屋、仙台……553

予言者のことば

# MIAの偉大な目的

大管長　デビド・O・マッケイ

まことに末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、建設的な生活すなわち人類の「救い」に役立つ生活によってたがいにたすけを与えている人々である。私はこの「救い」ということばで、あらゆる苦労としんぱいがなくなる死後の世界における一つの場所を言っているのではなくて「今ここに」おける個人と家族と社会にあてはまる「救い」を言っているのである。「この神権の時代」に予言者ジョセフ・スミスに啓示されたイエス・キリストの福音と完全な教会そしきとによって、私たちはいま教会の中で奉仕のできる多くの機会を利用して霊のはったつをするようにたがいにたすけを与えている。私たちは統一された学校せいどと教会の福祉けいかくとによって、教育に関すること、この世の福祉に関することにたすけを与えており、教会員の一致した努力によるけっか実際的の利益が現に与えられている。

私たちは神権定員会、補助そしき、および社交的の集会、ワード部（支部）の会合などでおこなわれる活動と交際とによって「真の兄弟愛」をそだてあげている。また私たちは健全な娯楽を確保することによって若い人たちにたすけを与えている。私たちは神権者の

指導の下に若い人たちにゆかいなそして健全な楽しみを与えているが、これは教会の「MIA」においてとおなじようにその他の補助そしきにおいても、またワード部長会（支部長会）の指揮の下に行われるいろいろな娯楽においても、若い人たちのために役立っている。このような方法により、またほかの多くの方法によって、わが教会は生活にあらわれるいろいろな面に於ける実際上のことを正しくそだてあげている。

「MIA」の目的はけっきょく、主なる神の霊感とみちびきとを受けて人間に不死不滅と「永遠の生命」とをもたらすことである。

私たちが直接の目的とするところは、若い人々の心の中に神のみわざのすばらしさを確信するつよい証詞を確立することである。この証詞がなければ「永遠の生命」を得ることはできない、「永遠の生命とは、唯一のまことの神でいますあなたと、またあなたがつかわされたイエス・キリストを知ること」（ヨハネ伝十七〇三）であるからである。

この目的を遂行する手段として、私たちは神が人間に与えたもうた啓示のきろくと、神が親しく人間をとりあつかいたもうた歴史のきろくとを、誰でもじゆうに利用ができるようにしている。この中には、すぐにわかることであるが、標準聖典と言われている聖典の内容ばかりでなく、私たちの前にある事実すなわち「創造にあらわれた神のきろく」もまたふくまれている。また私たちは創造と啓示に関するこれらのきろくとともに、社会人としてのすべての人間の相互関係、および神と神のみわざに関し人間のとる態度について学ぶことができる。

ある「MIA」の指導者が、教会のことに無関心な女の子に彼女の弱点について話しかけるとする、すると彼女はつんと顔をあげて、「MIA」の指導者がこんな風に話しかけ

ようとは、と心に思いながらいくぶんふんがいして立ち去るかもしれない。しかし、関心がよせられたという事実、無関心な彼女の注意が自分の弱点にあつめられたという事実は、将来よい結果を生ずる種子をまいたことであろう。

あなたが彼女に無関心であると思われるよりは、関心をよせたと思われる方がよい。

教会の歴史をふりかえってみると、今日ほど教会員の間に陰険な影響力が多く存在する時代はない。今日ほど教会の若い人々をおびやかしている危険のあったことはない。私は悲観論者でもなければ、いまの若い者たちはむかしよりもわるくなったと言う人々の仲間でもない。私はいまの若い人々がむかしよりわるくなったとは信じていない。私は、いまの若い人々の両親である人たちが、いまから二十年前、四十年前、さては六十年前にその息子たちによせていたつよい信頼とおなじくらいつよい信頼をいまの若い人々によせている。いまの若者たちの大部分は、何十年も前の若者たちとおなじように熱心であり、だいたいおなじようにじぶんの宗教についてまた真理について考えている。しかしながら、周囲の情況は何十年も前とちがってたしかにわるくなっている。何十年前よりももっと険悪な影響力が、教会の若者たちを真理の道から誘惑している。それらのすべては誰の目にもあきらかであって、この上説明するひつようはない。

わが教会の若い人々の中には、現在道徳の標準がかわってしまったと思っている者がある。しかし、末日の聖徒である青年男女の守るべき道徳の標準はけっしてかわるはずがなく、またかわってはならないものである。外界の標準はかわるかもしれない、また低下するかもしれない。そして、その影響が教会の社交そしきの中に滲透(しんとう)するかもしれない。しかしながら、わが教会の標準は維持されなくてはならない。わが教会の青年男女はその標

準を知っていなくてはならない。この責任を負う者は君たちのほかに誰があろうか。

「ＭＩＡ」はその学課を教えることによって、また音楽、ダンス、スポーツ、体育および演劇などのあらゆる活動によって、教会員である若い人々（またいつまでも若くありたい人々）のために、ひじように完全でありまた望ましい生き方を教えてこれを伸ばすのに役立っている。

「ＭＩＡ」はその教える演劇の中で人の興味をよぶばかりでなくまた霊の向上と知識の進歩に役立つところのもの、すなわち人間関係の中にあらわれる最低のものよりはむしろ最良のものを強調する劇を上演すべきである。これにはいくつも理由があるが、とくに二つだけあげると、

第一に、じぶんに与えられた役の「せりふ」をおぼえている若い人々は、一生けんめいおぼえて劇のたびにくりかえした文句を一生涯わすれずに居るであろう。第二のこれよりもっとたいせつな理由は、価値のあるりっぱな劇が観衆に偉大な影響を与えることである。とくに若い人々にたいしては、たくみに書かれたくみに上演された劇は単に「自然をうつす鏡」であるばかりでなく「真実」そのものであって、それからうける印象によってよいこともわるいことも生じてくる。

演劇は「ＭＩＡ」のたいせつな一面である。「ＭＩＡ」の演劇はたのしいばかりでなく社交の洗錬にとってまたいろいろな知識の進歩にとって大いに役に立つ。「ＭＩＡ」の演劇は、文学においても、生活においても、最良にして最高の趣味を生ずるものでなくてはならない。

わが教会の受けた啓示の一つに「すべて心の歌はわれの悦びなり。然り、義しき者の歌

はわれに対する祈りなり」（教義と聖約二十五〇十二）という主のみことばがある。

私は諸君に告げて言う、この義しき者の歌をなお一層たくみに歌う技を発達させなさい。あなたたちの心がよい音楽で一ぱいになるような毎日を送ろうとつとめなさい。「ＭＩＡ」が後援しておこなわれる音楽大会や音楽活動は、この目的を達するためにたすけとなるにちがいない。

いま「ＭＩＡ」（相互発達協会）の会歌とよばれている「つずけ、はげめ、進め」（ＣＡＲＲＹ　ＯＮ）の曲の歌詞は「ＭＩＡの老貴婦人」ルース・メイ・フォックスの作に成るものである。「ＭＩＡ」とその活動を愛しているあなたたちはつぎの歌詞をよく知っている。

「山の如く強く　我ら立つは
父が沃土と　なせしいわお
生ける神を信ずる　名誉と徳の岩
主の旗高く　あげし荒野」

わが教会の歴史にかがやくこれらの山や荒野を見たことはないが、「山の如く強く」立つ若人たちが今日「ＭＩＡ」にいる。この若人たちが「生ける神を信じ」、「名誉と徳の岩」を座右の銘として実践するとき、先祖がつたえた遺徳は彼らのものである。

されば、全世界いたるところにいるわが教会の若人たちに私たちはよばわる、

「この貴き権受けし若人よ
つずけ、はげめ、進め」と。

## 伝道部長メッセージ

伝道部長
ダワエン・N・アンダーセン

このたび、私はひじょうに喜んでまた日本へやってまいりました。ただ今私がこのように喜んでいるのにはいくつかのわけがあります。その一つというのは、私は神の国である教会のために働らくよう、神の予言者を通して主なる神さまから召されたとき、いつでも喜んで召しを受けるように心がけているからです。第二に、私は日本がひじょうに美しい国であると思っています。そして私は日本の人々を愛するようになりましたからです。このほかにもう一つのわけがあります。それは私の生涯の中にあるいろいろの働らきが、結局日本の人々の中で教会のために働らくようにこれまで神さまに導かれてきたのだと心から感じているからであります。私がこのように感じるようになった原因になっている経験の中からそのいくつかを聞いていただきましょう。

私が教会のために宣教師となって行くように始めて召しを受けたとき、私はアルゼンチン伝道部へ行ってもらいたいと言われました。しかし、その後まもなく、アルゼンチンの国内に不安が起って宣教師の入国がゆるされなくなりましたので、私の召しはハワイ諸島へ行くように変更されました。私はハワイで伝道中に、ハワイの人々の間ではもちろん多くの日本の人々の間でも伝道の働らきをいたしました。私は日本軍がハワイの真珠湾に爆撃を加えたとき、ハワイで伝道をしていました。

私の話は千九百四十三年（今から十九年前）のある暑い夏の朝から始まります。その朝、私は同僚の宣教師と一しょにマウイ島のラハイナからホノコワイへ向ってあるいていました。すると、T型のフォードが私たちの側へ止まって、車を運転していた立派な身なり

の日本人が一しょに乗って行きませんかと言いました。私たちはその好意を受けて、一しょにその車にのって行きますと、その男の人は「私に英語を教えてくれませんか」と言いました。それで喜んでこの人に英語を教える約束をしましたが、その時使ったテキストは「モルモン経」でありました。私たちはそれから数週間この人と福音について楽しい会話をすることができました。この人は真言宗の僧侶でありまして、私たちの知っているかぎりでは、その当時まだ集りを司会するのを許されていただ一人の日本人僧侶でありました。私はこの人に日本語のモルモン経と信証講義もあげましたが、この人は両方とも二週間のうちにほとんど読み終ってしまいました。その後またこの人のところを訪問しますと、大へんに感激していて、私は自分の説教を聞きにくる人々にあなたの下さった本のことをもう教え始めましたと、私たちに話しました。

それからこの人が私に「日本へ行きたいとは思いませんか」と言いましたから「ええ、行きたいです」と答えますと、「では、この戦争が終ったら私はきっとあなたを日本へつれて行きます。そうすればあなたは日本の人々にこの教会の教えを説くことができます。これこそ日本の人々に必要なことです」と私のことばにつづけて言いました。そこで私は、任期が終ったら私はアメリカへ帰らなくてはなりませんが、教会はかならず宣教師をすぐに送っているでしょうと言って聞かせました。これが日本の人々に福音を伝えたいという望みの種子をしっかりと私の胸にうえつけた始めての経験でした。

ハワイから帰ってくると、私はすぐに米国軍隊へ入りました。基本訓練が終ると私はまた太平洋諸島へ向けて航海の途につきました。私は日本軍と戦わなくてはならなくなるだろうということが解っていましたから、軍隊が出した言葉の本を手に入れて二三の文句をならい始めました。私のおぼえたことは「デテコイ」、「イタイメニアワセナイヨ」、「コーサンシロ」などでした。戦闘第一日に私は隊長によばれて、洞くつの中にかくれている人々を出てこさせるように命ぜられました。私は自分の知っているかぎりの言葉をみんな叫びましたが一人も出て来ませんでしたから、私たちはしかたなく煙をつかっていぶし出すことにしました。すると、小さな女の子が二人とおばあさんがひどく咳をしながら出てきましたが、三人ともおびえきっている様子がよくわかっていました。私はやっと三人の気持ちをしずめてから、さきに私が三人に向って叫んでいたことがわかったかときました。すると小さな女の子が三人ともよくわかっていたよ、と答えました。これにひきつづいて、六週間私は前線で戦闘に従事しましたが、その間にこのようなかわいそうな人々の命をたくさん救うことができました。しかし、私のただ一人のモルモンの戦友はこの間の戦いで戦死をしました。私自身も二度負傷をしました。そして度々危い目に逢いましたが私の命は奇蹟的に助かりました。

それから何年もたった千九百五十一年には、私はすでに結婚をしてユタ州プロヴォで学校の先生をしていました。そのころ朝鮮事変が起り、青年たちが応召して出て行ってしまいましたので、大管長会は私たちのステーキ部に宣教師を出すように求め、私のワード部も一人の割当てを受けました。私たちのワード部の監督は、七十人会定員会にその中から宣教師を出すようにたのみましたが、みな家族もちでありましたので、監督はその中から一人を選ぶのをちゅう

ちょしました。私は当時ワード部の書記をして居り、長老になっておりましたが、妻と相談をした結果宣教師を志願することにきめました。監督は「七十人」が一人も志願しなかったときにかぎり私のねがいがかなうと言いましたが、「七十人」のうちから一人も志願者がありませんでしたので、私たちは伝道部について十二使徒会々員であるハロウド・B・リー長老に会うために派遣されました。

私たちの面接が終ったとき、ハロウド・B・リー長老は私に向って、どこかとくに行きたい所があるかと聞かれました。さきにハワイで会った真言宗の僧侶熊谷師が私の心の中に一つの種子をまいておきましたので、私はすぐに、日本へ行きたいと答えました。

皆さまが知っての通り、私は日本へ派遣されて二十二ケ月の時を過しましたが、そのうち十七ケ月はマース伝道部長の下で副伝道部長として働きました。私は大部分伝道本部で働らいていましたので会員の方々と親しくお会いすることができませんでした。それで私は日本語をあまり多くおぼえませんでした。私が日本に千九百五十一年から五十三年にかけて居りました間、私はひじょうに幸福でありました。それで私はアリリカへ帰ってからも私の胸の中にいつも鮮やかに生きている日本と日本の人々のことを機会があれば必らずほかの人に話し、いつも喜んでアメリカに居る日本の人々と共に交わってまいりました。

さて、千九百六十二年五月二十六日、モイル副管長が私にもう一度日本へ行く気があるかとたずねられましたとき、私は何のちゅうちょをする間もなく「はい、よろこんでまいります」と答えました。これを受けてモイル副管長は「君は前の日本伝道部、現在の北部極東伝道部を管理する認可を受けている」と言われました。それからアンダーセン姉妹と私とは、この伝道部長として召される準備として大管長会および教会の大幹部の方々と「みたま」に満ちた多くの時間を過しました。そしてデビド・O・マッケイ大管長から親しく特に任命されたのであります。

私の心は喜びに満ち、主に対してきわめて大きな感謝の気持ちをささげています。それでありますから、私の今もっている最大のねがいは、この日本の地に在って忠実にまた気高く神の御国のために働きたいということであります。私をあなたたちのために働らく僕べであるといつも考えて下さい。

私は神さまがこの日本の地と日本の人々とを必らず偉大にして下さり、神の王国を完全にこの日本の地にお建てになると心から思っております。私たちがみなこのすばらしい責任を負うことに喜んで参加いたしますようにお祈りいたします。

ミツションマザー
# 伝道部長夫人のメッセージ

ペギー・ヒユイシ・アンダーセン姉妹

私がこころのなかで一番いつくしんでいたねがいの一つがこの前の月にほんとうにかなえられました。今、私はモルモンの宣教師になっています！　私が夫と一組の宣教師になって出て行って、イエス・キリストの福音が真実であるという証詞をするのは、少くとも三十年後のことでしょうと考えていたのはついこのあいだのことでした。ところが今私はこのすばらしい日本へ来ています。それは私が予言者であるデビド・O・マッケイ大管長から伝道部長夫人として召され、またキリストのまことの教会が現在地上にあることを人々に教えるために召されたからであります。そのまことの教会、末日聖徒イエス・キリスト教会はあなたと私の教会です。

ちょうど今から十一年前の夏に、私の夫は志願して日本へ宣教師となってまいりました。しかし、その時私どもには女の赤ちゃんが一人ありましたので、私は一しょに来ることができませんでした。私は、夫が宣教師になって参るにふさわしい人であることを感謝し、また私は経済を助ける者になるはずでありましたから、家を守るのもまた私の役であろうと感じました。夫が家をるすにしました二年間、夫から来る手紙も、来る手紙もみな主のみわざと日本の人々を愛することでいっぱいでした。今から九年前に夫が日本からアメリカへ帰ってきまして、当地で経験した数々の経験について話をしはじめ、また日本人についてほめたたえるいろいろなことを私に言って聞かせましたとき、私はいつか夫がまた日本へ行くにちがいないと胸のおくで感じました。私たちは今、日本へ来てあなたがたと共に居ることができるのを光栄に思い喜んでおります。この度伝道部へ召されまして私はひじょうにけんそんな心持ちになって居ますが、私はアンダーセン伝道部長はあなたがたの伝道部長として立派に職責をつくすと確く確く信じています。私はこれまでアンダーセン伝道部長が、たびたび主のみたまの導きを受けて働いたことを親しく見ております。また私ども二人の生涯のうち、夫が聖霊の導きに従わないで事を行ったことは一度もないことを知っております。アンダーセン伝道部長の力がたらないときには、主なる神が祝福をして大きな力を与えて下さいます。主なる神は忠実な人々にこの約束をして下さいましたからであります。私は心から夫に対するよい協力者になりたいと思っています。そして、私たちは二人して北部極東伝道部の会員であるあなたがたのために働らきたいと思っています。また私たちは天の父なる神のためにもよく働らきたいと思っています。

私は今アンダーセン伝道部長と一しょにぜひ方々の支部を訪問したいと思い、またあなたがたと一しょにこの大きな神のみわざのた

めに働らきたいと思っています。ただ今私のもっています一番大きなねがいは、私が自分で証詞ができるように日本語をおぼえることであります。私は神さまが真実生きてましまし、またその御子イエス・キリストも真実生きてましまし、また私たち人間はみな神さまのすがたかたちの通りにつくられたことを確かに知っております。私は予言者ジョセフ・スミスが、まことの教会をこの地球上へ再び回復するために神さまがお使いになった仲立ちであることを本当に知っております。私は神さまが私たちの祈りを聞いて下さること、神さまが私たち一人一人みんなのことを心にかけていて下さること、また神さまが私たちの祈りにこたえて下さることを確かに知っております。私は神さまが、私たちにもっと忠実に義務をつくすようのぞんでいらっしゃることを確かに知っております。また神さまが、私たちに新しい日を迎えるごとに一層よい生活をするようのぞんでいらっしゃることを、また神さまが私たちに聖霊から導きを受けるに足る資格のある生活をするようのぞんでいらっしゃることを確かに知っております。

近ごろ私は聖餐会で次の「主に来れ」（第八十一番）という讃美歌をみなさまと一しょに唱ったとき大へんうれしく思いました。この讃美歌は私の先祖にあたるO・P・ヒュイシの作ったものなのです。

「主に来れ　重荷負い罪　にまけし者よ　主をたよる者をみな
天へと導きまさん
主に来れ　主の愛に　祈れば聞きたまわん　おお、
知らずや天使くだり　ながそばにいますを
主に来れ　国々や　島々より来れ　「われに来よ」
と主は呼ぶ　すべての人を呼ぶ」

私たちがどんな国に住んでいようと、どんな言葉を話していようと、みんな神の息子娘であるということを知っているのはまことにすばらしい感じではありませんか。私は、キリストが私たち神の子供たちのうちで一番先に神からお生れになったお方であることと、私たちはまた父なる神の前に出る用意をしていなくてはならないことを知ってうれしく思っております。

今ニュージーランドで監督をしているアンダーセン伝道部長の兄弟から知らされた一つの実話を話させていただきます。その話というのは、その兄弟の今年五つになる女の子が教会ですばらしいことをしたというお話なのです。この女の子はある日曜日の朝、子供の日曜学校に出ていましたが、その時日曜学校の歌の先生は子供の生徒たちに歌を唱わせようとしてずいぶんなんぎをしていました。この女の子の両親はちょうどほかから移ってきて間もないことでしたので、その子は少々ひとりぼっちに感じていました。しかし、その日曜学校の歌の先生は、その女の子の口もとが何か歌いたそうな様子をしていることに気がつきました。その上、ほかの生徒たちはあまり旨く歌っていませんでしたので、先生はその女の子に、前へ出てきてその歌をみんなに唱ってあげてちょうだいと言いました。その女の子はすきとおったとてもきれいな声で次の歌を唱いました。

「わたしは神の子　この世に生れ　父さま母さまよいお家
みんな神さま下さいました
手をとりみちびき　はなれずに
まことの道に　すすませたまえ
いつかみそばに　住むために　知らねばならぬことをみな

私に教えて下さいませ
わたしは神の子　なさねばならぬ　事がたくさんありまする
もうおそすぎる　と言われぬうちに　神のことばがわかるよう
私に教えて下さいませ
手をとりみちびき　はなれずに
まことの道に　すすませたまえ
いつかみそばに　住むために　知らねばならぬことをみな
私に教えて下さいませ
わたしは神の子　みこころならい　よい子になれば
みめぐみあふれ　もう一度みもとへ　行けまする
手をとりみちびき　はなれずに
まことの道に　すすませたまえ
いつかみそばに　住むために　知らねばならぬことをみな
私に教えて下さいませ」

それから二三日たつと、ある見たことのない女の人がこの小さな女の子のところへ来て、やさしく頭をなでながら、そのお母さんの顔をみて次のように言いました。

「私はこの教会へ改宗したんですよ。ところがバプテスマを受けてからは一度か二度教会へ出たっきりで、ぜんぜん興味がなくなってしまいました。私は教会から離れはじめ、いったい教会に何があるかと疑いをもちはじめました。私はとてもふさぎこんでがっかりした気持ちになったので、悪魔の霊の力に負けてしまうように感じました。私はやりきれなくなって、もう一度教会へ出てみようと心にきめました。そして前の日曜日の朝に子供の日曜学校へ出てみたんですが、さびしいにがい気持ちをかみしめていたんですよ。ところが、あなたの小さな娘さんがあの歌の美しい文句を唱うのをじっと聞いていたとき、私は悪魔の霊の力がすーっと消えて行くのを本当に感じました。そして、この福音が真実だという強い気持ちが私の心の底からもう一度よみがえってきました。私は神さまの愛を本当に感じました。もう二度と教会から離れません。みんなあなたの娘さんのおかげなんですよ」。

私はみなさまに、私たちがみんな神の子たちであること、また神さまは私たちの現在の状態に対して、また現在成ろうと努めていることに対して、私たち一人一人をいつくしんでいらっしゃることを証詞したいと思います。また私たちが自分自身の才能をみつけてこれを神の御国の御用に立てるよう、たえず自分を善くしようと努めるよう、また神さまから善い感化を受けるために教会の集りに出て協力をしますように心からお祈りいたします。また私は、私たちが自分の愛する者たちや隣り人に義しい模範となるよう、それぞれの家庭で主なる神さまの善い感化を求めるようにしたいと思っています。

質疑応答

解答者　ジョセフ・フィールディング・スミス長老

# 「予言者と鍵と神権とについて」

**質　問。**

「私たちはこれまで予言者エライジャの来たことについて討論をしてきましたが、私たちのもっている本には、エライジャの来たのは彼があらゆる神権の儀式を執り行う権能の鍵をもっているからである、また権能が与えられなければ、あらゆる神権の儀式は正しく執り行うことができないと言ってあります。

「会員の一人は『教義と聖約』と『完成への道』七十五頁（英文）をとりあげて、メルゼデク神権がイスラエルから取りさられたと書いてあると言いました。それにもかかわらず、私たちはサムエル、イザヤ、エレミヤ、エライジャなどの人々がみなメルケゼデク神権を保有していたことを知っております。

「私たちはこの二つの言葉をどのようにして調和させることができるでしょうか、またエライジャがあらゆる神権の儀式を執り行う権能の鍵をもっていたことを証明する聖句はどこにあるでしょうか。

「もしエライジャがあらゆる儀式を行う鍵をもっていたとするならば、エライジャの来ない前に行われたバプテスマと確認の儀式はどうなりますか。

「私たちは、キリストがヨハネに命じて、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリを神権者に聖任なさったと思っております。この二人は授けられた神権の権能によって互いにバプテスマを授けました。このことは予言者の言葉とどのように一致していますか。

**解答。**

エライジャに与えられた権能は、われわれが神殿で受けると同じ「結び固めの儀式」に関する権能であった。バプテスマは、アダムがエデンの園から追い出された後に採用された儀式であって、それから後、代々アロン神権の権能によって執り行うことができた。この権能は背教によるほかけっして取り去られたことはない。予言者が言ったようないろいろな儀式は、われわれが神殿で受ける、大神権もしくはメルケゼデク神権にかかる儀式であった。現在われわれに伝えられている聖書には、罪の赦しを得るためのバプテスマのことがひじょうにぼんやりとしか言ってないが、昔のユダヤ人たちはバプテスマの儀式をよく知っていたので「ヨハネのバプテスマ」を容易に受け入れた。古代の予言者たちとイスラエルの予言者たちは、モーセの時代に至るまでメルケゼデク神権の鍵を保存していた。

主なる神はイスラエルからこれらの鍵をとりあげてアロン神権をおのこしになったが、まだメルケゼデク神権を保持する予言者たちを彼らの中にのこしておくことが必要であったから、必要の度ごとに主なる神は直接御言葉を下してとくにこれらの予言者たちを召し大神権者に聖任なさったのである。

予言者ジョセフ・スミスは「すべての神権はメルケゼデク神権である。しかし、これには異なった部分もしくは階級がある。モーセをして神と相対して語らしめた部分はとり去られたが、天使の導きとめぐみを受けさせる部分はのこった。すべての予言者はメルケゼデク神権を保存し、神から親しく聖任された人々である」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」一八〇―一八一頁参照）。

われわれは、イスラエルが神に不従順であった暗黒時代にもイスラエルの中にアロン神権がのこっていたことを知っている。このような状態に於ても、誰か確認の儀式を執り行う権能のある者の居ることが必要であった。われわれは昔の予言者たちが聖霊の賜をもっていたことを知っている（ペテロ後一〇二十一参照）。列王紀上第十七章には、数年間雨も露もないように天を閉ぢる権能がエライジャ（エリヤ）に与えられたと誌してある。エライジャ（エリヤ）は或るやもめのかめに粉が尽きずびんに油が絶えないように祝福を与え、天から火を呼び下してバアルの祭司たちの捧げものを焼き尽し、彼らのとなえる偽りの教義をうちやぶる権能を授けられていた。エライジャ（エリヤ）にこのような偉大な権能があったのであるから、ほかの予言者たちにもイスラエルの民の中の忠実な者たちに欠くことのできないメルゼデク神権の権能があったと考えてもさしつかえない。

また救い主が導きとめぐみを与えておいでになった時代に、エライジャ（エリヤ）のもっていたこの権能がエライジャ（エリヤ）によって、またモーセのもっていた権能がモーセによってペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人に回復されたことを思い起すべきであろう。このことに関

して予言者ジョセフ・スミスの言葉を見てみよう。予言者は次のように言った、すなわち、

「神権は永遠なものである。救い主とモーセとエリヤによってもろもろの鍵はペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人に授けられた。それはかの山に於て救い主の前で彼らの「身が変った」時のことであった（註。マタイ伝十七章参照）。神権は永遠なるものである――すなわち始めなく終りなく、父母もない。もしも儀式に変化なければ神権にも変化がない。福音の儀式の執り行われるところには必らず神権がある」（予言者ジョセフ・スミスの教え」五八頁参照）。

これによってわれわれは、救い主の時代に、神権の鍵を保存していた昔の予言者たちを救い主が重んじたまい、自らはモーセとエライジャ（エリヤ）に授けたすべての権能をもちたもうにもかかわらず、二人を呼び寄せてペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人にモーセとエライジャ（エリヤ）のもっていた権能を授けさせたもうたことを知る。カートランド神殿で予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリにあらわれて、「時満ちたる神権の時代」に行使するために彼らの鍵を再び授けたのは、モーセとエライジャとエライヤス（アブラハムの時代にいた予言者）の三人であった。

イスラエル集合の鍵をもっていたのはモーセであり、主が来りたもうた時に道が備えられているように、子供らの心を先祖に向け、先祖の心を子供らに向ける鍵をもっていたのはエライジャであった。

これらの予言者が彼らの保存する鍵をもって来たのみでなく、またアダムからペテロ、ヤコブ、ヨハネにいたるまでもろもろの鍵を保存していた数々の予言者およびバプテスマのヨハネも来て、彼らの保存する鍵を回復し、かくの如くして「時満ちたる神権の時代」は、神の御子が王の王、主の主として来りたまい、王座にあって約束に従いこの地球を支配したもうために備えられたのである（「教義と聖約」百二十八〇十八―二十一参照）

（インプルーヴメントエラ誌一九六一年一月号）

モルモンの教義（三十三）

# 「モルモン経」（その二）

**「われらは……またモルモン経（英文）も神の御言葉なりと信ず」**

**末日聖徒イエス・キリスト教会信仰箇条、第八条**

佐藤龍猪

## 一、「モルモン経」が真正の経典（カノン）であること。

末日聖徒イエス・キリスト教会は四部の「所依」―依って立つところの―経典をもっている。それはすなわち「聖書」、「モルモン経」、「教義と聖約」、「高価なる真珠」の四つであって、これらは末日聖徒イエス・キリスト教会では「標準聖典」、すなわち信仰と教義の権威ある指導書として採用されている（「信仰箇条の研究」九頁参照）。

それであるから、末日聖徒イエス・キリスト教会は「聖書」を以てその標準聖典の中で第一のものであり、教会の信仰および教義の指導書として最要なものであると信じている（「信仰箇条の研究」三一六頁参照）。同時にまた「モルモン経」は、その目的が㈠イエスが永遠の神なるキリストにましますことを証し、イエスが「父なる神」の独子であって世の人々の罪を贖うためにこの世へ降りたもうたことを誰ににもわかるようにはっきりと証明し、またイエスが「贖い主」であり「救い主」であることを反論のできないほど完全に立証すること、であり㈡純粋完全に福音の教義を教えて「救いの計画」をはっきりと知らせることであり、㈢ジョセフ・スミスが「主によって油注がれた」予言者であり、彼によって「回復」という末日の大事業の基が置かれたことを証することであるから（マッコンキー長老著「モルモンの教義」九十三頁参照）、「聖書」と一体になって「イエスが永遠の神なるキリストにまします」ことを証し、「救いの計画」を世に知らせ、また「聖書」の予言が成就したことを告げる真正の聖典（カノン）であると信じている。

末日聖徒が「モルモン経」を真正の聖典（カノン）であると信じている根拠としては、また次のような事実を挙げることができる、すなわち、

㈠「モルモン経」の内容があらゆる関係事項について「聖書」とすべて一致している。

㈡「古代の予言」は「モルモン経」が世に出たことによって完全に成就した。

㈢モルモン経の記事自身は厳密に一致し、首尾一貫している。

㈣「モルモン経の中の予言」が明らかに真実である。

㈤考古学と人類学の支持があること。

などである（「信仰箇条の研究」三六四頁参

照)。

たとえば(ハ)について言うと、イエス・キリストの誕生、地上における導きとめぐみの施こし、ぎせいとしての死、再臨、「救いの計画」、イスラエルの散乱と集合、末の世におけるシオンの建設とエルサレムの再建、バプテスマ、聖霊の賜物、奇蹟、信仰そのほかひじょうに数多くの事項についての予言または説き明しをくらべてみると「モルモン経」と「聖書」にある各々の記録は互いに確証し合っている。この二つの書の一つにあって両方にない予言もあるがどんな場合にも矛盾や不一致がなく「モルモン経」と「聖書」にある教義のどの部分にも完全な調和が見られる。しかもこの二つをくらべてみると「モルモン経」にある記事の方がはるかに意味が明瞭であることがわかるであろう(マッコンキー長老著「モルモンの教義」九十三頁、「信仰箇条の研究」三六五頁参照)。

## 二、「聖書」にあらわれた「モルモン経」に関する予言。

(イ)エゼキエル書第三十七章十五―十七節に「主の言ふたたびわれにのぞみて言う『さらに、汝人の子よ、一片の木をとりてその上に、ユダおよびそのともなるイスラエルの子孫のためにと書き、また一片の木をとりてその上に、ヨセフおよびそのともなるイスラエルの全家のためにと書くべし。これはエフライムの木なり。而して汝これを共に合せて一つの木となせ。これ汝の手の中にて相つらならん』」(欽定訳聖書「英文」イザヤ書二十九〇十五―十七参照)と誌してある。

古代のヘブライ人は、羊皮紙の長いきれの上に文字をしるして、一本の木の上に巻きつけ、こうして書物をつくる習わしがあった。エゼキエル書の中にある「一本の木」という言葉は「一巻の書」と同じ意味で使われていることが明らかである。

エゼキエルがこの予言を発した当時、イスラエルはすでにユダ王国とイスラエルまたはエフライム王国の二つに分裂していたから、エゼキエルはこの予言の中でユダとヨセフの別々の記録(エフライムはヨセフの子)のことを言っていることも明らかである。

さてニーファイの国民はマナセの族に属するリーハイの子孫と、エフライムの族に属するイシメルの子孫と、支族関係のはっきりしないゾーラムの子孫とから成っていた(「信仰箇条の研究」三六七頁、同附録六八四頁参照)。従ってニーファイ人はヨセフの族であったから、ニーファイ人の記録はすなわちヨセフの記録(ヨセフの書)であり、「ユダの木」(ユダの書)がユダヤの聖典(聖書)をあらわしているように「ヨセフの木」は「モルモン経」をあらわしている(「信仰箇条の研究」三六七頁参照)。

また主なる神は「われエフライムの手にあるヨセフとそのともなるイスラエルの支族の木をとり、これをユダの木に合せて一つの木となし、わが手にて一つとならしめん」(欽定訳聖書「英文」エゼキエル書三十七〇十九参照)と仰せになった。

「エフライムの手にある」とは「ヨセフの木」(ヨセフの書)が「末日におけるエフライム」であるジョセフ・スミスに授けられて世にあらわれ、また大部分エフライムの子孫である末日聖徒が現にこの「ヨセフの書」(モルモン経)をもっていることを示す(マッコンキー長老著「モルモンの教義」六九三頁、「教義と聖約」二十七〇五、「信仰箇条の研究」三六七頁参照)。

このエゼキエル書三十七〇十五―十九の予言は、エゼキエルの時代の人々の前で成就されたと主張する人々があるが、聖書を注意して読む人はこのことが「末日」に起るはずで

あったことを知るにちがいない（エゼキエル書三十七〇二十一参照）。

「ヨセフの記録」すなわち「モルモン経」は、神のみもとから遣わされた天使モロナイによってその原版が埋めてある場所を告げられ、エフライムの子孫であるジョセフ・スミスが神の賜である能力によってこれを解訳し、「末日」の時代に始めて世にあらわれ、そして「ユダの木」すなわち「聖書」と一体になってイエスが永遠の神にましますキリストであることを証するようになった。すなわち「末日」（イスラエルの集合の起るとき）に「モルモン経」が世にあらわれたことによって、エゼキエルの予言が立派に成就したことがわかる（「救いの教義」第三巻二一〇頁「信仰箇条の研究」三六八頁参照）。

(ロ)イザヤ書第二十九章（一―二、四節には「禍いなるかな、アリエルよ、アリエルよ、ダビデの住みし邑よ。年に年を加え、彼らにぎせいをほふらしめよ。されどわれアリエルをなやまし、そこには悲しみと嘆きとあらしめん。而してわれ、かれをアリエルの如きものとなすべし」、「かくて汝は卑くせられ、地に伏して物言い、塵の中より低き声を出して語らん」（欽定訳聖書「英文」イザヤ書二十九〇一―二、四参照）としてある。

予言者イザヤは、ダビデの住んだ町「アリエル」すなわわちエルサレムに今にもわざわいが下ることを言ったが、次に「われ、かれをアリエルの如きものとなすべし」と言ってエルサレムに居たユダヤ人以外の民のことを言っている。イザヤの予言は、アリエルすなわちエルサレムのことを言っているのではない。何となればアリエル（エルサレム）の言葉は「地に伏して物言った」のでもなければ「塵の中から低い声を出して語った」のでもないからである。それは千四百年以前にアメリカ大陸で亡びたヨセフの族の残りの者のことを言っている。このヨセフの族の残りの者はその滅亡に際して、ローマの軍隊に包囲されて没落したアリエル（エルサレム）のように大きな悲しみと嘆きによってなやまされた。「われ、かれをアリエルの如きものとなすべし」という予言はここに実現したのである。

このようにして滅亡した民が「塵の中より低く語る」声で「地に伏して物言うべし」というイザヤの予言は、モルモン経が世にあらわれた事で文字通りに成就した。モルモン経の原版は地中から取出され、その記録の語る声は「塵の中より語る」声である（「信仰箇条の研究」三六八―三六九頁、「救いの教義」第三巻二一三頁参照）。

(ハ)イザヤはまた前の予言（イザヤ書二十九〇一―二、四）にひきつずいて「かかるが故に、すべての黙示は汝らには封じたる書のことばの如くなり、文字知れる人にわたして、請うこれを読めと言わんに、答えて封じたるが故に読むこと能わずと言わん。また文字知らぬ人にわたして請うこれを読めと言わんに、答えて文字知らざるなりと言わん」（イザヤ書二十九〇十二、十二参照）と言って居る。この予言はモルモン経の原版からの写しをマーテン・ハリスがニューヨークのアントン教授に見せたとき正に成就した。マーテン・ハリスが「金版の一部は封ぜられているし、また持ってくることをとめられている」と告げたとき、教授は「私は封じてある書物を読むことはできん」と言った（「高価なる真珠」ジョセフ・スミスの著二、六十五参照）。またイザヤの予言は、モルモン経の原版が無学の青年ジョセフ・スミスの手にわたされたことを以て成就したと言える（「信仰箇条の研究」三七〇頁参照）。

## 三、モルモン経の中にある予言。

(イ)モルモン経ニーファイ第二書第三章十一―十三には「されどわれは汝の子孫より一人の聖見者を起し、わが言葉を汝の子孫に宣べ伝うる権能をこれに授けん。しかして、ただわが言葉を宣べ伝うるのみならず、またすでに汝の子孫の中に伝わりたるわが言葉をかれらに証明する能力をこれに与えん。それ故に汝の子孫は記録を書き、またユダの子孫も記録を書くべし。しかして汝の子孫の書き誌す書と、ユダの子孫の書き誌す書とは、相合して偽りの教えをうち破り、争論を鎮め、汝の子孫の中に平和を起し、また末日に於て汝の子孫にその先祖とわが誓約とを知らしめん。イスラエルの家よ、汝を回復するためのわが仕事が一切のわが民の中に始まる日来る時、かの聖見者は弱きより強きに移るべし」とある。これはエジプトへ売られたヨセフに与えられた主なる神の言葉であるが、この予言はさきに述べた、ユダの記録とヨセフの記録とが一つになるというエゼキエルの予言と共に、ジョセフ（ヨセフ）・スミスによってモルモン経が世に出たことによって実現した（「信仰箇条の研究」三七三頁参照）。

(ロ)またモルモン経ニーファイ第二書二十九〇二―三にはまた「わが言葉は世界の隅々までも響きわたり、イスラエルの家に属するわが民の旗となるべし。かようにわが言葉世の中に響きわたるによりて、多くの異邦人『聖書か聖書か。われらはすでに聖書を持てり。このほかには聖書あるべからず』と言うべし」という言葉がある。

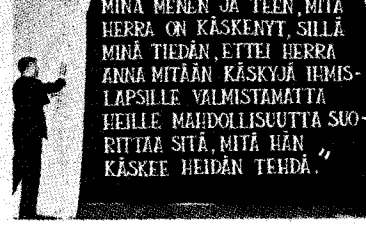
現在、回復された福音を告げる言葉が近代の通信機関の利用によって文字通り「世界の隅々」までひびきわたり、また「新しい啓示があるはずがないからモルモン経は無益である」という世人があるのを見れば、モルモン経の中にある予言が事実となって現われたことがわかるにちがいない（「信仰箇条の研究」三七四頁参照）。

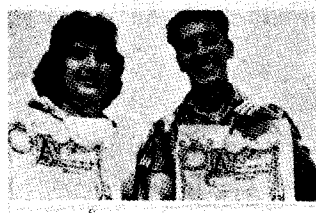
四、考古学と人類学の支持。

中央アメリカでかって栄えたインカ、マヤ、アステック、メキシコなどの文化の遺蹟が研究されるに従って、また古代アメリカの住民についての研究が行われるに従って、モルモン経の記事が正しいことを証明する事実がいろいろ発見されている。くわしくは「信仰箇条の研究」第十五章モルモン経（続）の五「モルモン経を確証する近代の発見」を参照されたい。

## 余録

モルモン経の原版について「信仰箇条の研究」三五一頁には、「しかし、この書物の全部は今までに飜訳されていない、その一部は今でも封じてある」としてあるが、「その一部」とはどれくらいであるか、ジョージ・Q・カノン長老はその著「ジョセフ・スミス伝」の中（新版四十五頁「英文」）で「この書物の一部、すなわち約三分の一は封じてあった」と言っている（マッコンキー長老著「モルモンの教義」三〇〇頁参照）。





# 伝道部におけるＭＩＡ

今全世界にある六十四の伝道部で働らいている宣教師たちが求道者と近づきになるために役立っている「ＭＩＡ」の効果を、最も確実にあらわしている標語があるとすれば、それは「彼らは遊ぶために（ＭＩＡへ）やってくる。そして祈るために（ＭＩＡを）出ないでいる」（They Come to Play and Stay to Pray）という標語であろう。

全世界いたるところで「ＭＩＡ」が行っているいろいろなプログラムを通して、これまで多くの求道者が教会の会員になっている。「ＭＩＡ」の健全な環境の中にあって霊を高める交わりをしつつ、遊び、学び、祈りをしているうちに、求道者たちの胸に教会に対する興味が湧いてきたのである。

**「人類が現世に在るのは幸福を得んためである」**

（ニーファイ第二書二〇二十五）ということを信じている人たちと体育スポーツ、ダンス、演劇、演説、学課などを共にしている間に、数しれぬほど多くのすばらしい人々は、国境や文化をこえて喜びを見出している。教会の会員たちと交っているうちに求道者たちは、「みたま」によりまた「みたま」の導きを受けて生活をしている多くの人々によって、しだいに同じ生活の軌道にのって行くようになる。そしてしだいに生長し良く変って行くにつれて、その家族や友人や仲間の人々の生活と触れ合い、しばしばこれらの人々をつれて「ＭＩＡ」へやってきて教会の良いところを知らせるようになる。

「ＭＩＡ」に属する各部（体育、ダンス、演劇、音楽など）とそれぞれの活動によって求道者たちは「ＭＩＡ」と教会に対して興味を覚える。「ＭＩＡ」に属する各部はそれぞ

れ、すべての年令の人々の生活に触れ合う役目をもっている。

**青年たちにとっと、運動競技はたがいに近づきになるために、また改宗をさせるために、また新しい会員が親しくなるためにすばらしい力を発揮している。**

**たとえば、英国では野球が媒ちとなって若い人々やその家族たちが多数バプテスマを受けた。**

ウェールスに住む二人の長老は、「ＭＩＡ」のクラス活動の新しい趣向として「野球のプラグラム」を始めて成功した。「クリッケット」の遊びをする大英諸島では、野球試合がとなり同志の青年の間にたまらないみりょくであることがわかった。長老たちは興味を持った青年たちに、もし君たちが教会の「健全な規則」を実践しチームの「倫理規定」に従うなら教えてあげようと言った。その試合が終ってから、試合に加わった人たちは腰をおろして福音のレッスンにしばしば耳を傾けた。それから、その長老たちは青年の両親に近づき、家族全部を一まとめにして福音を教えるとりきめをすることがしばしばあった。

まもなく、そのプログラムは大英諸島および北部大英諸島伝道部の全部を含むまでひろがり、長老たちが伝道をしている所ではどこもかしこも野球のチームが結成された。長老の中には一度に二つまたは三つのチームを動かしつずけていた人もあった、これは需要が多すぎた結果そうなったのである。これらのチームは地方部のチームとなり全伝道部のチームとなり、ついに連合王国（カナダ、オーストリヤなどを含む大英国）の決勝試合にまで発展した。

一九六〇年の七月と八月に、千百十一名の改宗者がバプテスマを受けたと大英国の二つの伝道部は記録している。これらの改宗者のうち、多くの者は「ＭＩＡ」主催の野球プログラムによる直接の結果としてバプテスマを受けたのであった。

**バスケットボールもまた、全世界を通じて多くの人々が教会にひきつけられた原因になっている。**南アフリカ、オーストラリヤその他多くの国々で、バスケットボールはその試合に加わった人々や試合を見に来た人々を求道者にしている。アメリカ合衆国のグレート・レーク伝道部で一九六一年の伝道部決勝試合に優勝したチームのメンバーは十人までわが教会への改宗者であった。その中の五人までがまた、教会に始めて興味をもったのは「ＭＩＡ」の体育プログラムによると言っている。全世界に存在しているこのほかの伝道部の会員になっている多くの者も、彼らに始めて興味を覚えさせ、教会へ入ってからもたえず活動するもとになっているのは、やはり「ＭＩＡ」の体育プログラムであると証詞をしている。

**このほか「ＭＩＡ」のプログラムにあるいろいろの活動もまた、福音を伝える宣教師の働らきに同じくらい力強い影響を及ぼしている。**たとえば、年若い少年たちに、「ＭＩＡ」の「スカウト」プログラムは、直接「スカウト」に加わっている者たちや、間接に「スカウト」と関係のある両親たちの生活に強い影響を及ぼしている。北部カリフォルニヤ伝道部で、一人の青年が若い改宗者である彼の友人によってネバタ「ＭＩＡ」の「スカウト」グループに紹介された。その若い改宗者である彼の友人は、その時までにモルモン経を半分しか読んでいなかった。しかし、宣教師たちはその青年に今年の四月にバプテスマを施こし、彼の母も教会に興味をもつようになって、息子が「ＭＩＡ」で活躍しているのを見てひじょうに喜んでいる。北部カリフォルニヤ伝道部に属するある家庭の二人の少年は、

そのバプテスマが行われた直後開催された表彰会で「スカウト最高章」を贈られた。七人家族のうちの五人まで「スカウティング」と「ＭＩＡ」によって生活に良い影響があらわれた結果バプテスマを受けたという例がある。のこりの二人はまだ年齢が不足であったために祝福だけを受けた。

東部諸州伝道部ワイノート支部の支部長ロナルド・ジェス長老は「スカウティングに興味をもっている一人の少年と、少年たちに興味をもっている一人の男とは、支部に於てスカウト隊をつくる中核となる」と言ったＬＤＳ「スカウト」隊々長の議論に強く動かされた。ところで支部の「スカウト」の年齢層に属する三人の少年のうち、「スカウト」のプログラムに興味をもっているのはたった一人だけであることをジェス支部長は発見した。適当な指導者をさがしたが無駄であった。その結果ジェス支部長は、もしも「スカウト」プログラムが存在しなければならぬなら、支部長自身が「スカストマスター」でなければならぬと結論を下した。そして毎月一度は、雨がふろうと雪がふろうと「スカウト」と一しょに一泊旅行をかならず行った。まもなくほかの二人の少年も「スカウト」に深い興味を覚えて「隊」に加わった。そうすると、教会に入っていない少年たちも入れてくれないかと頼み始めた。そして、その年の暮までに「スカウト隊」は二十三名の隊員を擁するようになった。そして、今や二十人の非教会員とその両親たちに福音が教えられている。

また北西諸州伝道部では千九百六十一年の四月に三百六十名の改宗者がバプテスマを受けた。このうち二百六十九名は十二才から十九才までの少年である。この伝道部でも多くの年若い人々が「ＭＩＡ」という門を通って教会に入ってきている。

北西部のある支部の「ゴールドアンドグリーンボール」に招待された一人の年若い女性は、その集りにあらわれている親しい気持ちと面白さにひじょうに心をうたれた。その結果彼女は「モルモン」についてもっと知ろうと決心するようになった。そして、「ファイヤサイド」と「ＭＩＡ」に出席して福音の研究を始め、とうとうバプテスマを受けた。

これと同じ伝道部に居た別の若い女性は、一幕物の劇が上演されているときに、親しい友だちから「ＭＩＡ」へ行きませんかと誘われた。この女性はそれで深い印象を受け、後に主役を演ずるまでになった。そして、しばらくの間「ＭＩＡ」に出席していたが、前に「ＭＩＡ」へ誘ってくれた友だちに「バプテスマを受けて教会へ入るにはどうしたらいいの？」とたずねた。そこで宣教師たちは彼女と度々集会を開き、ついに千九百六十一年四月にバプテスマを受けた。

オーストリヤのウィンナで、宣教師たちはそこの「ティーンエージャー」たちが夏の夜を映画か「スパチーレン」（銀ブラのたぐい）に費していることを発見した。そこで昼間に「トラクティング」をして見たが会うことのできた青年はわずかしかなかった。オーストリヤの青年は昼間学校へ行っているか働らいているかどちらかであるからである。

その結果ウィンナの「ＭＩＡ」の青年会員と宣教師たちは、オーストリヤの人々がすぐれた音楽と雄弁とを好む感情に訴えることにきめて、「ＭＩＡ」音楽と演説の「青年プログラム」を印刷したチラシを全市にばらまいた。このプログラムが終ってから、指導者たちは用意された軽食を共にしながら歓談をして紹介と集会の取りきめをすることができた。こうして、最初の「ＭＩＡ」プログラムに得た交際から五人の人々がバプテスマを受けることになった。

**このほか世界各地における「ＭＩＡ」のグループもまた旅行者やその地方の人々に貴重な奉仕と楽しい娯楽を提供している。**マトソン航路の汽船が、南太平洋の定期航海に当ってタヒチ（フレンチポリネシヤ伝道部）のパピーテでドック入りをしていたとき、四十人の歌手から成るＬＤＳ聖歌隊が乗客のために船の上で歌を聞かせた。そのほかの若い人々はハワイヤンダンスとタヒチダンスをして見せた。また「おばあさん」たちは元気のよい「アパリマ」（手踊り）で観衆を喜ばせ、男の人たちは「ヒメネ・タラバ」（古い伝説、系図、聖書の物語など）を歌って聞かせた。

**ペルーのカラロ支部では宣教師たちが土地の人々に英語を教えて奉仕をしている。**ペルーは公立の学校が僅かしかなく、私立の学校へ入るには多額の金が必要である。宣教師たちは大人のクラスと少女のためのクラスと「スカウト」のためのクラスを、毎週定期に開く「ＭＩＡ」の集りで開き、クラスが終ると「ＭＩＡ」活動を行っている。

全世界に於ける大部分の伝道部では、毎年定期に「ＭＩＡ青年大会」を開催する。これらの大会に聖徒らはその友だちを誘ってきて、三日もしくは四日の間楽しい会を開き、福音を学び、また証詞をする。彼らは幸福と和合のふんい気の中で、皆一しょになって歌を唱い、話をし、また遊びをする。

**ニュージーランドで半年毎に行われる「フイ・タウ」はマオリ音楽と舞踊による文芸祭で最高潮に達する。**これは伝道部に属する多くの支部でＭＩＡが行うマオリ文化に関する研究にとって絶頂に位するものである。今年、南アフリカにおけるＭＩＡ青年大会の記録が伝道部から報ぜられた。それによると、四日間に及ぶ「週末復活祭」のＭＩＡ青年大会に七百名以上の出席者があった。これはまた「復活祭の聖歌」によって絶頂に達した、と。

昨年北メキシコ伝道部では、毎年行われる大会に会員と友人と合せて六百名以上の出席者があった。全教会を通ずる青年大会にきめられた様式に従って、各地方部はダンス、音楽、演説、演劇、男子バレーボール、女子バレーボールの伝道部決勝試合に出場する選手たちをつれてきた。

昨年ヨークシャーのフィレーで開かれた大英国合同大会では、三日間の会議（非合開）に二千人の人々が出席したが、その時テニスと水泳が活動のプログラムにつけ加えられた。このほか大部分の伝道部も、各々の青年大会を司会する時、これと同じように成功の報告をすることができるであろう。

わが教会のＹＭＭＩＡの監督会々員、およびＹＷＭＩＡの会長会の会員が共にわが教会の外国伝道部を訪問して、これらの地域に於ける青年大会に出席する機会を持つという先例が中央管理会により本年五月につくられた。総監督であるジョセフ・Ｔ・ベントレー長老と書記補チャールス・Ｅ・ミッチェル長老は、中央の会長であるベルタ・Ｓ・リーダー姉妹ならびに会計書記であるヘレナ・Ｗ・ラルソン姉妹と共にヨーロッパにおける数々のステーキ部と伝道部とを訪問した。

大英諸島に滞在中、これらの人々は北部大英伝道部およびウェールスのマンチェスター・ステーキ部、リーヅ・ステーキ部等を訪問した。それからリーダー姉妹とラルソン姉妹とはフィンランドのタンプレで三日間にわたって開かれた青年大会に出席したが、その時千人以上の人々が出席した。この大会において四十二人の女子会員が個人賞を受け、聖さん式日曜学校およびＭＩＡの集会に百パーセント出席した賞を十四人の者が受けた。この際、リーダー姉妹もまた一人のフィンランドの女子会員に「ゴールデン・グリーナー賞」

を授けた。この賞を受けたのはこの伝道部で二回目である。この大会においてＭＩＡの喜劇「求婚期間」が上演されたが、これはリーダー姉妹の訪問があるというのでちょうど八週間前にフィンランド語に飜訳を終ったのであった。

リーダー姉妹とラルソン姉妹とがフィンランドを訪問中、ベントレー長老とミッチェル長老の二人は大英伝道部、ロンドンステーキ部、ライシェスターステーキ部の青年大会がシェッピー島のミンスターで開かれたのに出席したが、この大会には七百名以上の人々が出席した。

昨年のことであるが、ＹＷＭＩＡの活動顧問であるラルー・ロングデン姉妹は（十二使徒会補助である夫君ジョン・ロングデン長老に伴って）タヒチ、トンガ、サモア、オーストリヤ、ニュージーランドの各地を訪問する機会を得た。この訪問旅行中に、ロングデン姉妹は幹部であるロングデン長老と共に、これらの地域でＭＩＡが運営されている様を観察することができた。

世界中にはまだ中央管理会員が訪問されていない地方が多いけれども、全世界の伝道部はみな発展をつずけており、ＭＩＡを改宗者獲得のためと、教会員が親密になるためのプログラムを遂行するための有力な道具として利用している。伝道部の名前とその諸活動、およびその業蹟をのせた表を見ると、その内容の豊富なことに心がうたれる。各伝道部はＭＩＡを通して改宗した報告、およびＭＩＡを通して再び活潑になった報告を数々送ることができる。ホンコンからベルリンに、メルボルンから東京に、さてはアンカレージからはるかリオ・デ・ジャネイロにいたるまで、ＭＩＡはいまこの地球上に神の御国をうちたてるために大きな助けを与えている。

（インプルーヴメントエラ誌、一九六一年九月号六四一頁参照）

## 練習の讃美歌

十九番「月日速く過ぎるも」

先月号で、十月の練習の歌を九番とお知らせしましたが、十九番に変更致します。

この、「月日速く過ぎるも」はメロディーは美しいですが、歌う場合音符の長さがいろいろ変化していますので少々歌いにくいかもしれませんが、なめらかに歌える様に十分練習して下さい。

二段と三段の息つぎに気をつけて下さい。

「みちちよわれはうたう」で切り「よせるなみ――」から三段を一息で歌えば良いのですが、長いので息がつづかない方は、フェルマータのところで切っても良いでしょう。それも無理な時は、三段の第二小節の「ま」の前で息をついで下さい。

テナーは、三段の第十一小節の「かみはいわおよ」のところ（ソソスィドミソソーソミ）の音を正確にとって下さい。

バスは二段目第三小節の「うたうよせる――」のところが、ドからマァに下ってますので、その音に気をつけましょう。

歌う前に歌詞をよく読んでおいて下さい

十一月からクリスマスの歌を練習します

子等は歌う二十九番　許し

大変美しい曲です。

二段目の第三小節のナチュラルをきれいに歌って下さい。

中序の速さで可愛らしく歌って下さい。

十一月　四十四番

支部の集会の讃美歌を選曲なさる方は、その集会に適した歌をお選び下さる様お願い致します。

時折、ＭＩＡの楽しい集会に、静かな讃美歌をおごそかに歌ったり、証会の後にＭＩＡで使いたい様な曲を聞きますが、この点も十分お考え下さいます様に。

日曜学校では、あまりゆっくりした歌い方でない方が良いと思います。

出来れば聖餐会の讃美歌は前もって話の題をきいておき、それに合うものを選ぶと良いと思います。前に習った讃美歌は、忘れない様に使って下さい。

# 支部だより

## 松本支部

梅雨が上って暑い毎日が続きますが皆様お元気ですか。こちら松本の状況を知らせましょう。

七月七日には宣教師の主催でHOBO・PARTYなるものが開かれました。宣教師の家が会場となり、自転車や大きな石油缶までが部屋の内に持ち込まれ、すっかりちらかされた（？）部屋が会場になりました。そこに出席した一姉妹は、坐る場所がないと片附けていました、ガラクタの散乱している部屋でカーター長老指導の下にゲームが行われましたが、そのゲームもガラクタ集めであったり、勝利チームにそのガラクタを丁寧に袋に入れて与えたりで驚きました。ゲームに興じている間に林長老の料理したスープが煮立ってきました。出席者の持参した野菜に、こって味をつけ、それを空缶に盛って戴く、ホーボースープは意外に舌を満足させますのでゲーム後に腹一杯飲みました。最後に、ゲームで一位になった兄弟が褒美としてバットを一振り、顔の描かれた袋を叩くと「飴の雨」参加者は「ソレッ」とばかりに拾い集め、ポケットに詰め込み、履物を貰って家路に急ぎました。

七月十五日の聖餐会は、友達に福音を教え教会へ導くことについてのテーマで、三人の宣教師達のデモンストレーションにより、方法を学び、また実際に児玉姉妹が兄弟に導かれたことについて話しをされ、最後に監督宣教師のスミス長老が話をされて、求道者獲得に良い方法を学ぶことが出来ました。ちょうど当日松本支部を訪問された宮城姉妹（実家に帰られた）と中央支部から松本の景色を見物に来られ、昨晩は深沢姉妹の家に泊られたそうで、竹村、上野姉妹をもその場に出席しておられ、特に上野姉妹は東京で最初にカーター長老から家庭集会を受けられ、カーター長老が松本支部へ転住されてからまもなく会員になられたと言うことです。

七月二十九日は、半年振りで遠藤姉妹（旧姓川上）が松本に帰って来られました。遠藤兄弟と共に集会に出席される姿は、松本支部にとってうらやましい姿です。兄弟の懐しい話を聞きました。兄弟は仕事の都合で二日後に東京に帰られましたが、姉妹はモルモン二世の為に、静養を兼ねて御両親の下に留まって居りますので、しばらくの間松本支部の集会に出席されるようです。

降旗松本市長はソルトレーク市の日本人最初の名誉市長と名誉議員の称号を与えられました。姉妹都市であるソルトレーク市を訪問した降旗市長は七月三日同市市役内で、リー市長からその称号を受けられました。降旗市長はモルモンの開拓の街の美しさ、整然とした町並みに感嘆しておりました。

（中部日本新聞七月二十二日記載より）

松本支部大会　七月二十日～二十二日

二十日の夜はまづ扶助協会で、地方部会長の鈴木明姉妹が訪問されました。三人の姉妹達が話をなされましたが、百瀬梅代姉妹はモルモン家庭のお母さんらしく話の中で、若い姉妹達へ立派なお母さんになるように忠告を与えておられました。

二十一日はMIAの大会で児玉栄治兄弟の司会で始まり、音楽の部としてコーラス、独唱二重唱および宣教師の四重唱と歌われてから、ダンスの部に入り、かって高校生時代に習われたモダンダンスを川久保健子姉妹が踊られて、最後にフォーク・ダンスをして終りました。

二十二日は今井地方部長の訪問と名古屋支部長柳田藤吉兄弟が仕事の都合で信州に訪れたのでちょうど支部大会に出度されました。朝に神権会が開かれ、その後十時三十分より一般大会午前の部が開かれました。話し手全員が支部各組織内の教師であり、テーマ「汝の神の為に務めよ」（モーサヤ書二章十七節）にそっての話を適宜にまとめて参加者にわかり易く話しておりました。途中に、三日間の全大会に出席しました鈴木姉妹も話をしました。しばらくの休憩を取って、午後の部が始まりました。全ての会の伴奏者として橋本志保利姉妹のオルガンにより讃美歌を唱い、神権者により聖餐式が行われました。話の途中に歌を入れて、最後に今井地方部長の話により支部大会も暑い中でも無事終りをつげました。支部が良くまとまって成功な支部大会でした。四人の訪問者が帰られるというので駅まで見送りに兄弟姉妹が暑さを忘れて顔を並べましたが、柳田兄弟の言うのに「松本支部の会員たちは歓送迎にまで熱心であり、以前松本を訪問された名古屋の会員たちが言っておられたとの事」を述べておられまして、暑いのに汗をもう一度かいてしまいました。

## 東京南支部

五月一日、メーデーの日に誕生された、津端兄弟姉妹御夫妻の初めてのお子様、穣治君の命名式が、七月一日中東支部長によって行われました。

金沢支部よりお勤めの関係で当支部にこられました川田益雄兄弟はこのたび南支部第二副支部長に聖任されました。

さて今月に支部だよりは、夏休みにおけるMIAの活動を紹介いたしましょう。

○スポーツの夕べ

活動的な夏を迎えて毎年恒例のMIA〝スポーツの夕べ〟は七月十九日千駄ケ谷プールに於いて兄弟姉妹たち、約三十名と共に楽しい一時を過しました。

六時半千駄ケ谷駅前集合、時間的にも会社学校の引け時、また神宮球場の野球ナイター等あり少々混乱しましたが、幸い遅刻者も少なく全員締切時間七時迄に無事入場する事が出来、ほとんど初泳ぎの連中ばかりで少々無理をした様でしたが事故もなく終始楽しい雰囲気で終る事が出来ました。　浅野記

○雑草の会

世間にある〝根ッ子の会〟と混同しないで下さい。この会が日の目を見たのは七月五日のエンサイン・ローレルのクラスで活動の計画を相談した時でした。我々の若さを心行くまで発揮出来る夏休みに、何をやろうかという相談であったが、登山、ピクニック、キャンプ等と楽しい計画に交って〝雑草の会〟（名前は後からつけたのだが）なるものの提案があった。多くの人が参加出来るというのでこの〝雑草の会〟を催すことになり、沢山の人が集まって来そうな聞こえの良い名前を募った結果〝雑草の会〟と命名された。この少し魅

力のあるPARTYの種を明かせば、うっそうと茂った教会の庭の草取り……といえばガツカリなさった方もいるでしょう。一人三十円也と米一食分の会費で草取りで汗を流した後食事会をすることに決ったが、この会費集めが又この上なくガメツイ方法、というより多くの人の慈悲深かさに甘えたサイセン箱方式で行われた。私は未だかってサイセン箱からおつりをもらった人の話を聞いたことがない。着眼点はそこである。（おつりの出る自動車販売機があるのになんて古くさいと云うなかれ）五十円持て来て二十円のおつり、これはサイセン箱には通用しない。百円箱に入れおつりのないことを改めて知った誰かの顔を想像して下さいというのはあまりにも残酷？

いよいよ当日になったが台風の影響で朝から雨、中止になるものとあきらめていたが、会の始まる一時間前ずい分強く降っていた雨が不思議にも上ってしまった。南支部の地面の見える所は遠慮することなく根をおろした草を見かねて神様は雨を上らせてしまったのかもしれない。この雨の為草が滑べる点を除けば地面もやわらかくなっており又なんと云っても助かったのはカンカン照の下でやらなくても良いことだ。この会は園芸高校に行っている吉川兄弟の発案であったが、彼を始めとして彼の学友の協力もあり、数多くの道具を学校から借りて下さったこと等恵まれた状態にあった為、三時間の間に庭と玄関はサツパリと涼しげな感じになった。あまりきれいになり過ぎて、翌日の日曜日に来る求道者がまちがえて通りすぎてしまわないかと宣教師たちは心配したかどうか知らないが……。

また雨の中を一人で取った草を入れる為の大きな穴を堀ってくれたキャーリー君こと田畑兄弟の陰の力があったこともつけくわえておこう。

（中川記）

## 「猿島キャンプ」

八月二日、三日、四日、私たちの支部では恒例の夏のキャンプを涼風さわやかな猿島にて行いました。久しぶりに郊外の気持良い空気を胸一パイに満きつした三日間の模様を御伝え致します。

第一日目（二日）、京浜品川駅に全員無事集合、兄弟、姉妹たちの顔は喜色満面といった面持ちでした。もう心は猿島のキャンプ地へと飛んでいたことでしょう。品川駅より特急で一時間余、猿島への玄関口に当る横須賀中央駅に到着致しました。全員は、ますます意気ようようと波止場へと向いました。猿島はもう目の前です。徒歩で約十分波止場につきました。ここで私たちは二班に分かれ、一班は町に買物に、そして私たち二班は、いち早く目的地めざして出発することに成りました海の渚はあくまで静かで私たちに、ほゝえんでいるかの様に見えました。船で約十分猿島

に上陸、このようにして、上陸第一歩は兄弟五人がしるすことになりました。それから上陸第一歩組はもうまちきれず、カツパよろしく海にとびこみ波とたわむれていました。二時間後猿島に全員そろってヒユツテに入り、やっと落ちつく事が出来ました。その頃はもう夏のやけつく様な太陽が頭上に高々と上り私たちの上に容赦なく照りつけていました。そろそろ夕食の仕度に取りかからなければなりません。夕食係はA班です。一人、八十円の予算で、皆の満足するような物をつくらなければならないのですから大変です。しかしA班が四苦八苦した結果、大変なもの?が出来ました。これもA班の協力精神のたまものでしょう。それでも、食事時は天地が逆さに成った様な大さわぎ。もん句をいう人、ただもくもくと食べる人、話に興ずる人、もうてんやわんやでした。でも楽しい笑いのふんいきのうちに明日を語りながら夕食を終えました。全く家庭的ふんいきでした。残り時間は個人個人で好きなことをして第一日を閉じることに成りました。

第二日目（三日）朝私たちB班は食事係の為五時起床、他の兄弟姉妹たちはグツスリと夢見ごこちといった表情でした。朝からの強い突風に食事係は大変苦労しました。しかし全員いっしみだれぬ協力ぶりに、風の方で驚いたのでしょう。風も弱まり無事食卓を囲むことが出来ました。朝の八時半頃でした。「おはようございます」だれかがいった。「まったくおそうございます」この言葉に一同の間からどっと笑いがもれた。風は前とは逆に強く吹いて来ました。海は昨日とはうって変った激しさです。責任者の顔にちらっと真剣味が表われました。それはむろん心配の表われです。というのは二日目に新しい兄弟姉妹たちが来ることに成っていたからです。案内所の話によると船は出るには出るが何時間おきに出るのか解らないというしまつです。ではしかたないと私たちは波止場で待つことにしました。…昼少し過ぎに大望の海の渡し船到着です。全員波止場へかけおりて行きました。でもこの時は兄弟一人だけでした。この時はみな九死に一生を得たという様な顔つきでした。

午後二時ごろ、他の二人の姉妹も到着し、予定の人員そろって一同ほっと一息。水と食糧も来ました。みなまた元気が出ました。元気が出た所で、海へいこうと相談し、島の裏側の波の静かな所へ泳ぎにいくことに成り、目的地目ざして、すわっと出発しました。留巣組はさっそく夕食の仕度です。しかし時間が余りなかったにもかかわらず、夕食はハイ・ペースでつくられました。しつこいようですが、全く協力精神のほかの何ものでもないと思わせられる協力ぶりでした。

さて夕食時、またいつもの様にわいわいがやがやでも食事が「ウマカツタ」らしく、もん句もでず、なごやかに夕食を終えました。この様な所にも南支部のもつ何ともいえぬふん囲気があるのではないのでしょうか。その夜は二日目同様自由時間をゲーム、歌などをして楽しくすごしました。

最終日（四日）朝食係は相変らずB班です。また昨日と同様、5時起床、「さあ最終日だからうまいものを一丁つくるか」といったものの一人当り三十円の当金では、どうころんでもそれ以上のものは出来ないのが定石である。でも私達南支部もっとうの協力精神をはっきして、今までにもないデラツクスのものが出来た。みな食事なれしたのか、あきらめたのはわからないが、実に良く食べた。この日は最終日でもあるので、全員で泳ぎに行くことに決った。みなますます元気で、さあ泳ぐぞといわんばかりで、その黒い、いや、

赤く日焼けした顔から白い歯を見せていた。十一時ごろに宣教師の一団が来た。ついに総勢がそろった。さあ泳ごうかつぱ連はさっそく、うでの見せどころと、どつと飛び込んだ、でもかつぱだけのことはある、「すいすい」泳いでいた。……昼食後、荷物をまとめた。いよいよ帰途につく時間がせまった。でもいせいのいいかつぱ連は、残りの二時間余をおもいきって泳いだ。

いよいよ帰途、全員の顔になにか離郷感にもにたさびしさがうかんだ。三日間ではあったが、美しい、楽しい猿島を私たちは一生忘れぬことであろう。でも全員の前にはあすからの大きな仕事がまっている。さあ笑顔で家路につこう。

（関口記）

## 西宮支部

七月三十六日「キャンプへ行こう」

西宮市に近い寶塚の山中の川が流れる生瀬に行きました。キャンプに最も適した美しい景色と場所は、その雰囲気も全く楽しいものにしてくれました。主催は歓迎委員会でしたが、会員達の協力も頂いて本当に素晴らしかった事でした。

出発は金曜日の午前〇時に寶塚駅に集合し、バスに揺られて約十五分の所に目的地に達しました。昼はテントをはる役目の人、夕食の準備にかゝる姉妹たちそして泳いで遊ぶ者とそれぞれ分担し合って事は順調でした。また会社の仕事により遅れる人たちも居て、人数は一定して決まりませんでしたが、一夜を皆と共に過した人数は23名も居ました、とてもその夜はファイヤを囲んで歌ったりゲームをしたり、時間も忘れる思いでしたが、司会者の指示の下に十時にはテントの中に入る様に従いました。規則正しく朝は目ざめて、美味しかった山の空気を存分に吸い乍ら朝食準備にと姉妹の協力で出来上ったおみそ汁は空気以上に美味しかったと思います。昨夜の食事はカレーライスでしたが、少しのおやつとすいか等を買って僅か二百円の会費は無駄なく赤字もなく上手に使う事ができました。

土曜日の午前十時に帰路の準備にかゝり、教会へは昼食時に着く事ができました。

熱さと遊び疲れた為に一時は教会堂で休む人もありましたが、結果として本当に楽しい交観事業の一つだと思いました。

## 名古屋支部

〇バプテスマ

今村洋子（六月十七日）

今井繁寿（七月十五日）

丸山東子（七月二十二日）

〇宣教師移動

日本に来て二週間のG・ブレント・スコット長老が六月十八日に来名。

ウエイン・カエリケア長老は六月十九日東京西支部へ転任

これで私たちの支部には二人のハワイの姉妹と四人のハワイの長老それに二人のアメリカの長老が伝道しています。

〇七月二十六日夕方六時からMIA主催によりスポーツの夕べが市内鶴舞公園で開かれた。開拓者記念日にちなんで土田準子姉妹と古芝健三兄弟がモルモンの開拓者たちの話をされた後、参加者全員によってゲームとフォークダンスが行われた。この日は帰省した二人の学生の兄弟や、岡町支部からの二人の訪問者も交えて、また新しい求道者も多勢参加して、暑い中にも楽しく有意義なプログラムが行われた。

〇今私たちの支部の庭にはバプテスマのプールがつくられています。白いタイル張りの美しいプールで、もう九分通り出来上っています。来月号にはこのプールで誕生され

た新しい会員の名前をお知らせしましょう

○変更された新役員は次の通りです。

日曜学校第一副会長　渡辺宏兄弟
日曜学校第二副会長　磯村昌義会兄弟
日曜学校書記　富板紀代子姉妹
子供日曜学校責任者　河村　裕子姉妹
子供日曜学校第一副　大鷹　光子姉妹
子供日曜学校書記　平植　節子姉妹
YMMIA会長　安藤修兄弟
YMMIA副会長　足立敏兄弟
支部書記補佐　青山宗平兄弟

## 小樽支部

○バプテスマ。新野礼子、西沢茂二、西沢静士、伊藤とし子、後藤満子高橋春江、高橋雄二、高橋ひで子(家族)、佐藤たけ雄、石黒かずを、西村正博、新野友子、藤松真由美、藤井りつえ、後藤詔一、森山よし子、小山内三枝、三上桑子、田畑春子、立田りつえ、山本きよえ、尾久多美子、

○現在宣教師　スポーテン長老、ランセル長老、ジョージ長老、ホワイトロック長老

○非専任宣教師　石塚明子姉妹、奥田節子姉妹

○七月十四日、十五日　北海道地方部大会小樽の地で開かれる。残念ながら、伝道部長さんをお迎えすることができませんでしたが、すばらしい大会を持つことができ感謝しております。十四日は塩谷海岸にて、キャンプファイヤーをかこんでダンスとコーラス、神権者の中のカツパは、良い所を見せようと海へ飛びこむ。……？　十五日は、静かな安息日を四つの支部の皆様と共に迎え、神権会、扶助協会、一般大会、証し会と有意義な時間を過すことができました。

またファイヤサイドは小樽支部に於て、会場がびっちりになる人々で大人も子供も心を開いて楽しい一時をすごし、それぞれの支部へと伺いました。

私たちの大会で最近はじめたことは、一泊の宿を会員や求道者の家をおかりしてとめるということです。地方部でもすでにしている所があると思いますけれど、大いにプラスになると思います。大会のために力をつくしてくれた方々に心から感謝し、また会う日まで、と、明るく別れました。

○七月二十六日、銀山の孤児院訪問、朝少し早くたち、小樽から一時間ちよつとの所にある梅ケ丘学園という孤児院を訪問しましたエンサインローレルクラスで計画し、大人の人々もまじえて、二十数名の兄弟、姉妹のお友達とで初めておとずれてみて？　びつくりしました。なぜなら、とても明るく元気なのです、天理教の方で経営している所でしたけれども、私たちも、もっとがんばらなきやあと思いました。

両親のいない子はあまりおらず、片親の方が多いということでした。そしてそのような施設に入れられるべき子が、北海道だけでも五千人もいるということです。

その日は四時間位しか共にいられませんでしたが、楽しい一日でした。宣教師たちとの顔をじっとみて「日本語を話すの……」と不思議な顔をしていました、帰りには門の所で一人一人握手をして「さあ、ちゃんと目をみて」とモルモンの握手をして大声でサヨナラを言って別れました。

あの子供たちの上に祝福がありますようにと神に祈らずにはいられませんでした。

(長谷川姉妹記)

## 仙台支部

真夏の陽光を受けて陸奥仙台の支部大会が開拓者記念日を中心に七月二十三日から二十九日迄一週間にわたって開催された。現代に

きるモルモンとして自然にとけ込むことによ生り、開拓者の苦難を偲び彼らの生活の一端を知ろうと、仙台を離れて西へバスで三十分程の所にある鳴合の峡谷にキャンプをした。折よく快晴の天候に恵まれ、宣教師を交えた二十人程の兄弟姉妹が、支部に於て初めて企画されたこのキャンピングに参加した。二十三日の昼近くバスで目的地に着き、テントの設営に始まり兄弟たちの集めたまきで、姉妹たちが腕をふるい二時頃になってやっと昼食にあづかる事が出来た。実行委員長中田力兄弟の指揮の下、キャンプの準備も万全に整った午後のひと時は、ボートに乗ったり泳いだり各々の自由時間を楽しく過ごした。夕食の後キャンプファイヤーを囲んでゲームに歌にうち興じ、又開拓時代の先人の歩んで苦難の生活を貫いた堅い信仰とソルトレークの谷に築き上げた偉業の話を聞き、胸に証詞の炎を燃やす強いみたまを感じつつ主に感謝の祈りを捧げて燈を消した。若い五人の兄弟たちは不寝番をして開拓者記念日のすがすがしい朝をむかえた。二十四日は紙谷支部長御夫妻も参加して、兄弟はお互いに主によって結ばれた兄弟の絆を胸に強く感じ、夏の一日を有意義に楽しく過ごした。仙台の地を潤おす広瀬川の上流に位置する鳴合のキャンプ地に楽しい夏の思い出を残して午後の三時ごろ帰仙の途についた。このキャンプを通して兄弟姉妹を良く理解し信頼の度を増し、モルモンとして生きる喜びを協力の精神を通して知り得たことを天父なる神に感謝して夕べの道を家路についた。キャンプの疲れを安めて、二十六日午後六時三十分よりＭＩＡ支部大会が開かれた。福田真兄弟管理の下、（ＹＭ）ＭＩＡ会長の高橋勝俊兄弟の司会で、第一部は内山早苗姉妹の初期の開拓者と私たちモルモンの責任についての話に始まりモルモン大隊の勇士ウィリアム兄弟を主人公とする『ピスガの義勇兵』が上演された。監督演出はＹＷＭＩＡ会長の高坂光子姉妹で福田真兄弟、天野昭兄弟、塩隆彦兄弟、佐藤順子姉妹、本郷美弥子姉妹、日野澄子姉妹、主役ウィリアム兄弟には新人求道者の和田さんが出演。開拓者としての生活を劇いっぱいに盛り込んだ熱演に、ある姉妹は涙を流して観ていた程だった。第二部の鍋を囲んでの幕開に落語と云う風変りな出し物がありなごやかな雰囲気の中に会食を終え、阿部敦子姉妹の指導で日本のフォークダンス、手踊りが行われた。二十八日午後六時三十分より地方部扶助協会指導者の鈴木明姉妹をむかえて、扶助協会大会が阿部敦子姉妹の司会で開かれた。今日の支部大会の主題である『苦を恐るな聖徒よ』を中心に開拓者記念日に因んだ話が四人の姉妹によって述べられた。安息日の二十九日は、午前六時三十分より「仙台のヨルダン川」と、かって仙台支部長であった渡部正雄兄弟の命名された広瀬の清流で新しく三人の姉妹と一人の兄弟のバプテスマの儀式が行われた。今井一男地方部長の祝福のメッセージをいただき高橋和子姉妹、永井和子姉妹、中村国恵姉妹丹正義兄弟が誕生した。午前九時より支部の教会堂に於て今井地方部長管理、紙谷支部長の司会で神権会が開かれた。阿部順夫兄弟の「信仰が開拓者の心に力を与えた」と題する信仰に生きた開拓者の話と今井地方部長の「信仰と力」というメッセージの間に、讃美歌第二十三番「恐れず来たれ聖徒」が、四人の兄弟によって力強く歌われ、苦を恐るな聖徒よ」と掲げられたテーマが兄弟たちの胸に固く結ばれた。続いて十時半から日曜学校が開かれ、阿部兄弟の司会で「アメリカの開拓精神」について、中田力兄弟「モルモンの開拓歴史」を福田真兄弟が話され、支部聖歌隊により讃美歌第百八十七番「やがて来る年に」

が歌われた後、「日本に於ける開拓」と題して天野昭兄弟の話があり級谷富保兄弟より「支部長会メッセージ」として、この支部大会に掲げられた副主題である教義と聖約第四章について、末日聖徒としての責任と務に対し勧告がなされた。午後の大会に入る前に扶助協会の姉によって用意された姉妹たち美味しい冷むぎをいただき種々談笑して午後一時より紙谷支部長の司会で聖餐会が開かれた。聖餐の前に新しくバプテスマを受けた兄弟が火と聖霊により按手確認され永遠の生命に至る扉を開かれた。幹部支持の後、「回復された福音」と題して塩隆義兄弟の証詞に満ち溢れたお話しがあり続いて六人の宣教師と支部長会のメンバーにより讃美歌第五十九番「主のみ旨に従いゆかん」が御堂いっぱいに歌われた。佐藤紀子姉妹の「我々個人の責任」と云うお話しの後、今井地方部長より『開拓』について現代に於て自己の内面の開拓がせまられていること、また先人の開拓の偉大さを讃えたメッセージが伝えられ、一堂に会した人々の心を主にあって一つに結び、記念撮影をした後夕刻六時半より「開拓者」と「タバナククコルワイヤ」の映画が上映され開拓精神で貫ぬかれた仙台支部大会の幕を閉じた(天野記)

＜神殿を訪ねて　9＞

# アイダホ神殿の内部をみる

── 特集記事 ──

アイダホ神殿

献堂、一八四五年九月二十三日。

モルモンの開拓者たちは最初の野営地をアイダホの荒野に求め、一八五五年のはじめにはシェム、スティトに着きその土地を開拓しはじめた。やがて一九〇〇年には多くのモルモンの集団がそこここに出来上った。

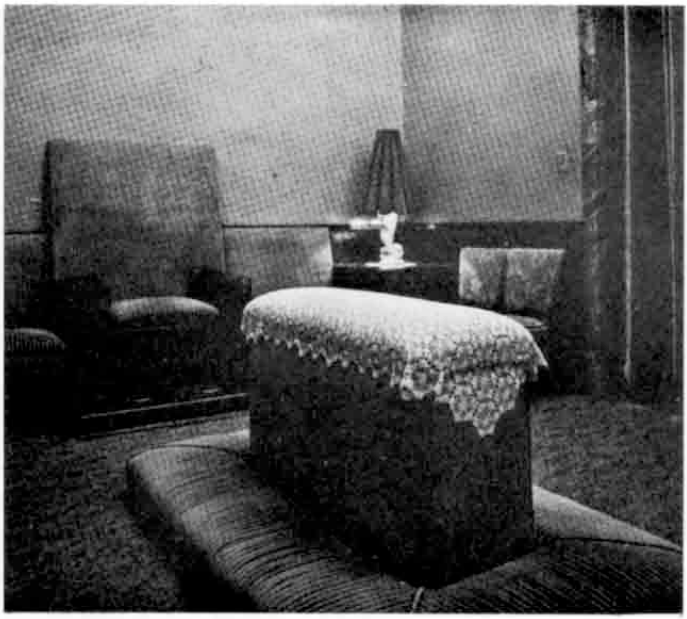
アイダホ市はそれらの集団のうちでモルモン教会の活動の中心となっていた。

教会が成長するにつれて神殿の建管計画も着々と進められ、一九四十年着工され、種々様々な困難にありながらも一九四五年完工をみたのである。

← 日の栄の部屋
最高の栄を象徴している。
イエス・キリストの教えに忠実であったものはこの様な生活をすることができる。

↓ 天地創造の部屋

↑　神殿内部に於けるバプテスマフオント12匹の牛に注目されたい。



←　日の栄の結婚と結びかためを行う部屋。

→
↓

エデンの部屋を象徴している庭園の部屋。

求道者のみなさまへ

# ある求道者への手紙

このあいだはお手紙ありがとうございました。暑い暑いとこぼしていた猛暑の候も去っていつか天地は秋に入りました。さきごろは山へ海へと猛暑をのがれて行った人たちで電車も汽車も超満員、この方がよっぽど暑苦しいのにとはたからおせっかいな心づかいをしていましたが、このごろはいたるところに秋風がみなぎり、道行く人も車上の人もみんな清々しそうであります

さて、もう時節はずれになってしまいましたが、あの暑い暑いと言っていた夏の最中、石もとかすという炎熱のただ中にあえいでいた当時、ま夏の白昼夢か熱気に混線した神経のいたずらか、私は次のような光景をある時頭にえがいておりました。

炎熱もえあがるような猛暑のさ中に、都の塵をさけた一叢の木立の間に立つ瀟洒とした日本風の一軒家、木々の影が映っている苔むした庭石にうち水のあとも涼しく、ひときわうっ蒼とした大木があおあおとしたたたみの上に影を落している。庭の一隅につき出して建てられた茶室の中に主客三四人、涼し気なよそおいに整然と端座して、主人のお手前を拝見しつつ香気ふくいくたる薄茶を賞玩している。一陣の涼風木の間を通って茶室に流れ入ると、緑の木立の匂いと茶の香気と麗人の衣裳にこめた香りと、三位一体となって清涼の別世界を形つくる。このような光景の中にあなたの姿がありました。

このあいだのお手紙の中には「私は知恵の言葉を聞いてからお茶をのむことをやめました。先生は茶道の真精神は和敬清寂であるから、お茶をいただかなくても茶道のさまたげにはならないと仰せになりましたが、私はもう十年近くもお茶のおけいこをしていただいて、宗匠さまにも厚いご恩があり、とくに茶道につながるよい友だちとのほんとに清く親しい交わりがあります。私自身がお茶をのむのはいけないと知った以上、ほかのお方にお茶をすすめるのは気がとがめます。私はお茶がなかったらあの方々との親しい交わりも、茶道によってつつまれるあの何と言えない上品な快よいふんい気ももうこれきりのような気がしてなやんでいます」と書いてありましたね。

私はこれを拝見して、自分自身が同じ境遇にいてなやんでいるような気持ちになり、しばらくの間は何も捨てて考えこんでいました私に考えこませたのはあなたが今、「この世のよいもの」との「た

ち切れないきづな」をたち切って、真理の道へひたむきに入って行った聖い人々とそっくりそのまま、このジレンマをたち切るために「本当に断ち切る」という「心が血まみれになる」ほどのなやみをふみこえて行かねばならない容易でない立場に立っていらっしゃると思ったからです。

なるほど茶道には「深い道」につながるものがあり、「お茶」には香りも味も薬効もすて難いところがあって、知恵と分別とを以て用いるなら、何となく餓鬼を思わせる世の常の「美味求真」（うまい物食い）や「金らんどんす」を無上のものと考えている衣裳道楽などよりはるかに高い世界のものと思えるでしょう。

それでもなぜこれを「たち切る」ことが要求されるのでしょうか。それは私たちの心が目の前にある「現象世界」の種々の相の底にある、より深いところの世界へ沈潜して行かないとはっきり解りにくいことなのです。

私たちの心が目の前にある「現象世界」の種々相だけにとらわれている間は「お茶もお料理も衣裳も音楽も」さては「お金も権力も」みな「何よりよいもの」なのです。知恵の言葉に従って「酒もタバコものまず、そればかりか茶もコーヒーものまない」ことは「自分からよいものを制限するつまらないこと」であり「広い世界をわざわざ狭くする心ないわざ」であると言う人がたくさんあることで、この世の中には「現象世界」の種々相だけを見ている人がどんなに多いかがよくおわかりのことと思います。

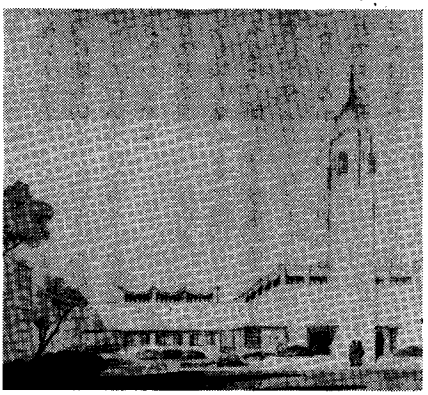
それならなぜ私たちは自分の心を「現象世界」の種々の相の底にある深いところの世界へ沈潜させなければならないでしょうか。人間は、とくに人々をあざむくことをにくむ人間は「現象世界」の種々相だけに心を留めてこの世を過ごすことにひじょうな「自己不満」を感ずるからです。

何年か前に「第一室戸台風」のもたらした大洪水におそわれたある地方で、今にも流されそうになった橋の警備に出ていた一人の男は、目の前の濁流の中を浮きつ沈みつ流れて行くふとんに目をひかれました。そのふとんには四つか五つになる男の子がしっかりつかまって流れて行くではありませんか。はっと思ったとたんにその子の目がその男の目とぴったり会いました。すさまじい濁流の中を今にも沈みそうなふとんにつかまって流れて行くその小さな子供の目の光は、必死になって救いを求める大人の叫び声以上のものをその男の心の底へぐんとうちこみました。うず巻く濁流はあっという間にそのふとんもその子も運び去ってしまいました。どうすることもできません。その時その男は思わず手を合わせたと言います。涙が流れて流れてしかたがなかったそうです。

人間の心はこういう時に「現象世界」を被っているとばりをつきぬいて深いところの世界をはっきりと認めるのです。あなたのお心をこうした世界に向けるのは議論や説得のよくするところではありません。ただ聖霊のみめぐみをひたすら祈りつつ、またこの次にはよいお便りに接することを願っております。

「空の空、空の空なるかなすべて空なり」と伝道の書第一章で叫んだ伝道者も、その結びの章では「事の全体に帰する所をきくべしいわく神をおそれその誡命を守れ、これはすべての人の本分なり」と言っております。味わうべきことばではありませんか。では御大切に、また。

# 「東京中央教会堂建築の承認が与えられた」



世界最大の都市である東京に最初の中央教会堂を建てるための設計に大管長会の承認が与えられました。この中央教会堂はみなさまご存じの通り東京都電神宮前停留所から明治神宮へ向う表参道に面して左側にある現在の敷地に建てられるはずであります。

当教会の建築委員会の委員長であるウェンデル・B・メンデンホール長老の言によると、これは北部極東伝道部および韓国伝道部に実施されようとしている建築計画の一部分にすぎません。以上の計画が実行されるためにすでに極東地域の建築監督であるメルヴィン・D・ヘールズ長老と会計係サムエル・K・カラマ長老とはこの七月すでに家族同伴東京へ到着、鋭意準備をしておられます。

この敷地はすでに建築委員長であるメンデンホール長老、建築士監督であるハロウド・B・バートン長老、および建築委員J・ハワード・ダン長老たちの検分を経ており、バートン長老が設計図を画いてこの度承認を得たのであります。詳細は日本人建築士によって後日完成されるはずであります。そしてこの教会堂の建築は、わが教会の建築計画に従い建築宣教師たちの助けを得て完成するでありましょう。

完成の暁には、北部極東伝道部東中央地方部の本部がおかれることになっており、大会堂は五百二十五人を収容するに足る広さがありますが、隣接する広間を合わせるとなお六百七十六名をさらに収容することができます。従って、地方部大会その他の大きな集会に千三百余りの人員を入れることができます。この大会堂は充分の広さがある休けい室・文化活動ホール、扶助協会の部屋、台所等を含むほか、全部の建物の中に二十四の教室にあてる部屋があります。この教会堂を形づくる三つの棟は日本式庭園を中にしており、各々の「筒形円天井」はこの建築に東洋風の特徴を与えている、とバートン長老は言っておられます。

（千九百六十二年七月七日、チャーチニュース参照）。

# 子供の日曜学校ガイド

## 上・中・下向の活動

### 切紙ざいく

「切紙ざいく」を利用して貼絵を作ってみましょうか。それに短い文章をつけ加え、子供たち、一人一人にみんなの前で見せてもらいましょう。白い画用紙、黒い紙、その他の厚紙に切ったものを貼ります。台紙の大きさは自由ですが、一番大きくても紙芝居位の大きさが適当です。では、どの様な状態を表現するかその範囲をきめて始めましょうネ。

『僕たち、私たちの出来る、お手伝』実際に子供たちが行っている中で、その一つを切り紙絵にしてみます。ここにのせた絵は全部、指で切りました。子供たちから集まりましたら、それに表紙を作り一つにまとめます。そして『僕たち、私たちのタラント』とでも題しましょうか。タラントと申しましたが、小さなお手伝を通してタラントの、お話をしてあげるのも効果のある一方法ですネ。これらは一つの例にしかすぎません。この他にも、まだまだ切り絵にする事柄が、たくさんございます。どなたですか、○○さんみたいなどとおっしゃっているのは！

一、作り方

特にこれといって、むずかしいことはございません。最初、紙にあらかじめ型を書いておいても結構です。

切る物は、ハサミ。ナイフを使用しても面白いものが出来上りましょうが、指で切った方が素朴な味が出ると思います。それに、指で切る方が「安全」ですものネ。

二、材　料

別に特定の紙でなく、折り紙、千代紙などで充分です。他に、のり・クレオン・えのぐ等。えのぐなども用意しましょうか。

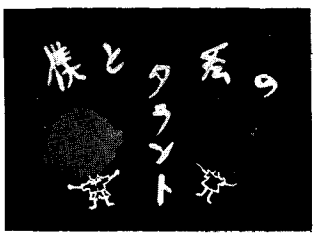
三、貼り方

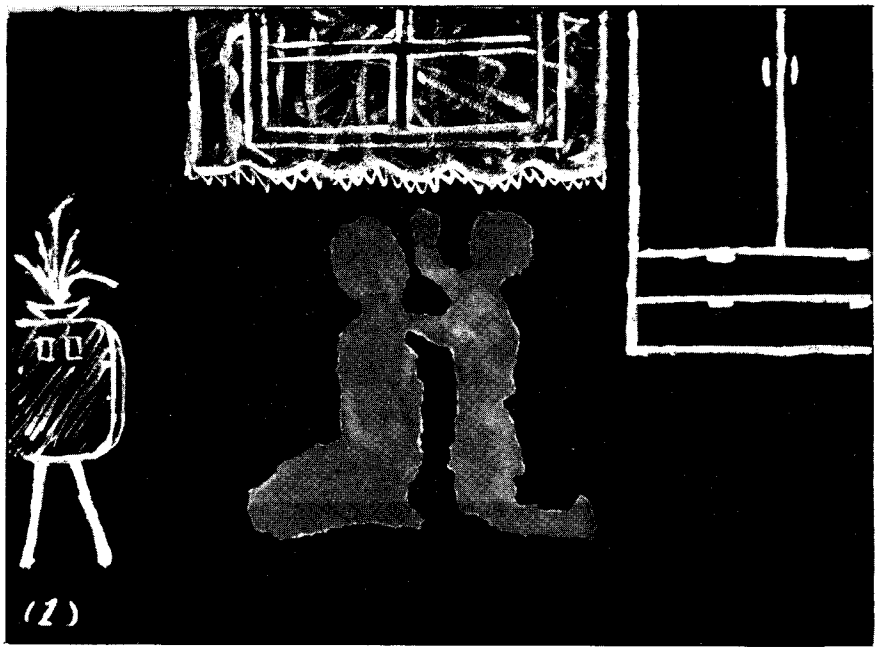
出来上った型を台紙の上に配置をきめ、のりづけにします。背景は、えのぐ、クレオンなどで簡単に表わします。

四、文章の作り方

短文で結構です。絵の裏側に書きこんでおきます。

サァ！　良い子のお手伝の模様が、どんな風に表現されるか、楽しみですネ。出来上りましたら、下級の子供たちにも、見せてあげてください。

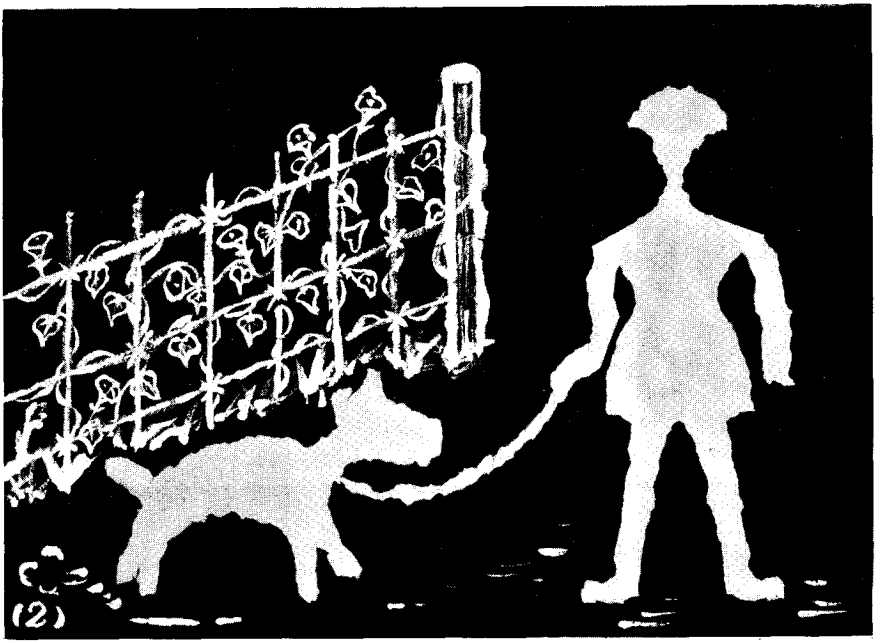





(1)

〝僕のお母さん〟

お母さんは、とっても働きものです。
朝は誰よりも早く起きて
御飯の仕度をしてくれます。
僕たちが学校に出かけたあとで
お掃除やら、お洗濯、ミシンかけ、
僕が「タダイマ」と声をかけると
「ハーイ」お帰りなさいと
カバンを下すのを手伝ってくれます。
それから、おやつを作ってくれます。
夕ご飯が終って、テレビをみている
お母さんは、すごく疲れたように
みえます。
そこで、僕は、お母さんに少しでも
楽をさせてあげようと、
毎晩、少しの時間、肩をたたいて
あげることにしました。




(2)

## 〝犬の散歩〟

今年の三月ごろから
私の家に犬がまいりました。
始めは、とても小さくて
可愛らしかったのですけれど
今は中位に大きくなりました。
でも、やっぱり可愛らしいです。
犬に散歩させるのが
私の役目に新しく加えられました
ワン・ワン・ワン・ワン
ホラ！　もう行きましょうと、私を
呼んでいます。
ヨシ、ヨシ、今すぐですヨ
アッ　ソウ！
犬の名前は、アイクといいます。

# MIA リーダー

## M・I・A（メッセージ）

相互発達協会は、九月より一九六二年度のＭＩＡが始まるわけです。ＭＩＡの中で若い人たちが福音の勉強と共に実生活の中で生きた信仰生活を学ぶ機会があり、その中に身体の発達と健全なレクリェーションが含まれ、集会の中に於いて、お互の友情を育てあげて行くことが出来ます。特に夏の楽しいプログラムによる協同生活を経験した人たちは、以前にも増してＭＩＡに集うことが愉しくなり、また活発にグループ活動に参加する様になることでしょう。よく、「同じ釜の飯を食うと親しさが増す」と言われますが、私たちも、ＭＩＡと言う一つの釜の飯を食う時、そこに集う人々の中には、より親しい感情をいだくものだと思います。

新年度に当って種々の催し物があり、また新しいお友達も沢山迎えることでしょう。ＭＩＡは、その字の示す通り、相互に発達する様に組織された一つの集りです。新しいお友達を迎えることは、とりもなおさず、更に新しい才能や、人格にふれる機会が出来たと言うことであり、自分たちの知らなかった知識を学ぶ機会の増えたことでもあるわけです。

「年若きより知恵を得よ」という主の戒めに従う時、我々が若い世代に於いて神を知り、福音を聞き、集会に集う機会のあったことを何よりも幸運と思うでしょう。

ＭＩＡの集会に於いて大いに、意義あることを学び、まだまだ未熟な智恵を発達させようではありませんか。

ＭＩＡは若人の集りであり、エネルギッシュに躍動する肉体を練磨する所です。そして、謙遜に祈り、福音を学ぶ所です。多くの友人の意見を聞き、活発に討論し、正しい方向に人生の示針を求める所です。

私の持っていないものと貴方が持っていないものを彼は持っている。彼の持っていないものとを私は持っている。お互の友情が、かって私になかったものを、今日与えてくれたこれがＭＩＡです。

ＭＩＡ讃歌を力強く歌いながら、新しい年度のＭＩＡをスタートしましょう。

伝道部ＭＩＡ指導者　佐藤　襄二
佐藤　栄子

**十月十一日　エンサイン・ローレル**

この日のエンサイン・ロールのクラスはテーマのレッスンがあります。「モルモン経研

究ガイド」や「モルモン経の読み方の手引き」などを参考にしてレッスンを行って下さい。

**十月十八日　円卓討論　エンサイン・ローレル**

合同の円卓討論です。クラス・リーダーの方は前週のうちに、何について討論するか発表しておいて下さい。と言うことは、それ以前に少くも二週間前迄に討論する議題について、皆の意見（要望する）をまとめておかなければならない。この日はエンサインのクラス・リーダーであるＹＭ会長にも出席して頂くと良いでしょう。司会は、エンサイン・ローレルのクラス・リーダーが行っても良いし、また、クラスの中から選んでも良いでしょう。議題が幾つかある時は、それぞれ司会者を変えるのも良いと思います。

**十月二十五日　一般活動「ハロウイーン・パーティー」**

毎年行われることですので、すでに良く知っておられることでしょう。秋の収穫を喜び行われるお祭りです。古くから、この日に、色々なおばけが集って来ると言われ、この種のパーティに集う人々は、何かお化けの仮装をする習慣があります。

ＭＩＡに於ても色々と趣考をこらした装飾がなされ、仮装して集う支部が沢山あります。主にその日のプログラムは、ダンスが主体ですが、ゲームを入れたり、お化け大会等をやると面白いでしょう。あまり日本では知られていないお祭ですので、宣教師の方々にそのやり方や、経験をお聞きすると良くわかることでしょう。アメリカ等では、カボチャのおばけを作って家々においてあります。

ＭＩＡ役員は全員で責任を持ち、仕事は分担して行うと良いでしょう。この日の為に、ポスター係と、装飾係は腕をふるうことが出来ます。また支部内の皆様に招待状を出しましょう。そして、多くの人が仮装して来る様に依頼しましょう。ただし、ＭＩＡの標準である所の、幾つかの規則を守って下さい。すなわち、面をつけないこと。胸や背を多く露出した服装をしないこと、ローソクを使用しないこと等です。

## Ｍメングリーナー用テキスト

（一課分）

**教師に対して**

このＭメン・グリーナーの教課過程は大学へ進学する年令に達した若い人たちに、鋭い知的な興味と価値ある問題を提起している。確かに「素晴しき考え」を取り扱っている課程ではあるが、全てを包含している訳ではない。その理由は次の通りである、(1)教会のクラスで討論するのに適当であるか。(2)現代の社会に一般的或いは特殊な意義を与えているか。(3)此の年令層の会員はくり返しアピールするだろうか。(4)生活に役立つものであるか

**課程の目的**

素晴らしき考えを持つ上に精神的な力を認識する事。

良き生活に価値ある基礎となる重要な思考力を養う事。

諸々の源から素晴しき考えの相互関係、その発展、永続性を示す事。

我々の大切な価値ある物と関係深い現在の生活の中に在る種々の問題を評価する事。

世間の素晴しい、長く続いてきた考えが福音の原則に如何に密接な繋りを持っていたかを見付けるのは興味深い事である。素晴しい考えの一般的原則を個々の特殊な立場に関連させるのを学ぶのはそれを理解する上に手助けとなる。宗教的原則が現在の生活の問題を理解し、解決する為に、如何に適用し得るかを悟る事は大切である。幾つかの考えは一つの形態から別の形態を呼び起こす。例えば、

人の責任と個人の価値は人間の多くの素晴しき考えに必須のものである。人間の心にある価値ある諸々の概念や自由意志の原則は福音に関するレッスンの真髄を成すものである。

## 教えるに当って

課程は三つのグループから構成されている。(1)聖書からの素晴しき考え。(2)宗教的な生活の中の素晴しき考え。(3)世間や現在の生活の中の素晴しき考え。この構成は時間的に柔軟性がある。教師はこの三つの順序を変えたがるかも知れないが次のレッスンに移る前に前のレッスンを終えておき、切れ目のないようにして頂き度い。亦、数師はレッスンを始めるに先立ち、計画や準備をする為に全教課に目を通した方が良い。教師はこのレッスンにある考えが興味と経験の広い範囲から抜き出されているのに気付くでしょう。その為に教師の経験と云う背景は権威を持った準備の手助けになり得るが、興味外の分野からのものはなり得ない。それ故に、あるレッスンに就てはその分野に特別才能ある人を招くと良い。例えば多くの教師はアイザック・ニュートンに関するレッスンで、科学的な内容を提出する為に、科学を学んだ人の手助けを必要と感じるだろう。教師は特別な知識を必要とする場合、クラスの人たちが一般社会の人達を利用すべきである。然し、どんな場合でも、教師は自分の責任は人生に対する基本的な考えや、その関係をクラスの人たちにはっきりさせる事だと悟らなくてはならない。

Mメン・グリーナーの人たちが知的な思考法を受け入れ、これから述べる素晴しき考えと福音の原則の相互関係が解って来ると、この教課が若い人たちの胸に証詞を打ち建てるのに役立つでしょう。この教課過程は真理は何処にあっても、永遠の父なる神を源とする全ての知識の単なる一部に過ぎない事を新たに示している。

### 第一部　聖書からの素晴しき考え

考えと云う宝石や真珠を見つけるには、謙虚な心、計画性、創造力豊かな活動を必要とする。亦、あなた方は神に対して興味を懐き正義に飢え、渇くような信仰心を持たねばならない。あなた方は深く心に感じ、考えた物で、他の人が未だ思い付かない事を見付ければ、良い考えを発展させる上に独自の方法をとるが良い。「考える時間のある時程、力強いものはない」更に高尚な原則に、「素晴しき概念は剣より強い」事を心に留めておくとよい。

新約聖書は力強い、はるか彼方の考え―かって学び、考え、実践したが故に―で充たされ、これらは永遠の生命に至るあらゆる考えの深い井戸となるのである。

### 第一課　新約聖書―イエス・キリストの信ずべき特徴

アメリカで、或る人の事を著わすのに、発行者は世間に対し、その人の信用のおける生活を基にした正しい様子を知らせる義務を負っている。この本では興味があり、検討の価値ある人達、或いは高い地位にあり、影響力の強い人達を含めている。リストに挙げられた人達は概ね一万人に三人の割合である。発行者は顕著な業績或いは高い地位を著わすには特に精確さを要求されている。或る人の事を書いた書物の出版業者、発行者は苦労し乍ら基準を作り、一万人の中から三人を選ぶのである、かくの如く、この世に生れた八百億の全ての人達の中から一人を選び、その人の人生の大要を精確に著わす仕事の難しさを考えてみたまえ。新約聖書は丁度この種の書物である。世界中の主な図書館にある偉大な伝記はナザレのイエスの生活のことである。

## イエスの伝記

この伝記に振り返ってみよう。或る話は神

秘的な話となり、詩的な表現に使われ、この世に生まれ、生活し、死んだ実在の人ではなくなっている。この一人の人間は普通の人とは違った方法で生まれ、この点だけで区別されている。彼はその時代の人達とばかりでなく、この地上に生まれた全ての人間とも区別されている。彼はおよそ一九六三年前に生まれた。彼の故郷はパレスチナであった。彼の母の名前はマリヤで父はエロヒム或いは永遠の父なる神であった。この世の一処女が文字通り、天なる神を父として息子を生んだと云う考えは、例え彼が成し遂げた信ずべき多くの物事を数えあげなくとも、地位と誕生の故にこの一人の人間を地上に存したとしなければならない。もし此の子供が本当に骨肉を与えられた神の独子であるならば、ここに可成り興味深い、検討する余地のある問題を提起する事になる。

アメリカでは誰かに就ての伝記の中ではその事実の資料は発行書に書かれている人から提供されている。それは充分注意深くなされている。新訳聖書は神の息子イエスに対する広い範囲の証詞で充ちた伝記で、他で見られる偉人のものとは異なっている。次の例にあるこの証詞の幾つかを調べてみよう。

1　キリストの誕生前と誕生時に与えられた資料

使徒は彼が如何にこの世に生まれるかを尋ねる（ヨハネ伝1章1節）天使がマリヤに現われる（ルカ伝1章26—35節）ヨセフに（マタイ伝一章20—21節）羊飼いにキリストが何処で生まれ名前は何かを告げる。（ルカ伝2章11節）マリヤのいとこエリザベツ証詞する。（ルカ伝1章42—43節）ザカリア、バプテストのヨハネの父、主なるイエスキリストの来たるを語る。

2　イエスの弟子達の話

マタイ伝2章3節、ヨハネ伝1章15節
マタイ伝16章13〜16節、ヨハネ伝1章49節

3　異邦人とサタンの言葉

ルカ伝4章2節、ルカ伝4章34節、マタイ伝27章54節。

4　イエス自からの証詞

マタイ伝26章63〜64節、ヨハネ伝17章1〜3節、ヨハネ伝4章26節、ヨハネ伝5章18—39節、ヨハネ伝8章53〜58節、ヨハネ伝10章32〜33節、ヨハネ伝10章32〜33節、ルカ伝23章39〜43節

5　天父と聖霊の証詞

ルカ伝3章〜21節、マタイ伝17章5節

以上はキリストイエスの記録の真実なる証拠となる新訳聖書からの二、三の資料に過ぎない。若し彼の記録が想像された美しいもの以外の何物でもないと見做すならば、現代の人間の見分け方は一体どんな判定方法なのであろうか。我々の生きている現代に於いて、多くの偉大な宗教家達はキリストを素晴しき教師として賞讃はするものの、新約聖書中にある彼に関する話を信用しないのは事実である。我々はこの素晴しい証詞を強めて呉れる伝記を神に感謝している。それは唯一の偉大な贈物である。我々は彼の言葉を学び、祈りを通して、信仰を深める事が出来る。

## イエスを如何に為すべきか

キリストが総督のピラトの前に立った時、彼は問罪にしようと試みた。『なんじはユダヤ人の王なるか』イエス言い給う『なんじの云うが如し』ピラトは困った。彼はイエスに対する証拠が偽りであり、妬みから出ている事を知っていた、彼は亦、イエスに証詞を持っていた。祭りの時に、一人の罪人が赦されるのでイエスの赦しを願った。大勢の人達は人殺しの罪に問われたバラバを赦すよう叫び要求した。ピラトは人々に向かって云った『さらばキリストと称ふるイエスを我如何に

為すべきか』彼等烈しく叫びて云う『十字架につくべし』（マタイ伝27章11～23節）

審判の際の統治者の態度こそアダムの時代から今日に至る迄、全ての世の中をよく云い表わしている。イエスもその試みにあったのである。彼が生まれた時の情勢、神の息子たる主張、彼の伝道の記録、彼の多くの言葉は我々の前に明らかとなっている。各人は次の質問に答える必要がある。「さらばキリストと称うるイエスを如何に為すべきか」あなた方がその質問に答え、それと違わない生活を送る事は全世界のうちで最も大切なものである。

**討論の為に**

1日本の偉人伝を何か読み、クラスに紹介しなさい。若し出来ないなら、出身地や現在務めている職場の中からすぐれた人を見付けても良い。

2我々にとって重要な人達、例えばキリスト、ジョセフ・スミス、コロンブス等の実在した証詞は何故に重要なのであるか。

3キリストであったか、或いはそうでなかったかはどんな違いをもたらすのか。また、新約聖書の記録はイエスが何者であるかを云っているのか。

4キリストの記録が偽りであるとすれば、彼が良き指導者と云えるかどうか討論しなさい。若し彼が文字通り神の息子でないならば、我々は彼と彼の伝道を信じられないか

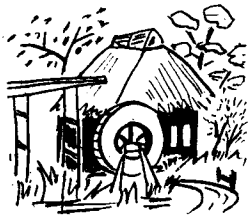
5新訳聖書を開き、この課に書かれてある色々な人の証詞を読んでみなさい。

6我々はイエスの生活と証詞の為に、何か義務を負わされたかどうかを討論しなさい。また、彼の生活を知って、どんな事をしたら良いのかも考えてみなさい。（佐藤襄二）

**○おわびとお願い**

○Mメングリーナー用のテキストは飜訳の手違いで少々遅れますので、第一課だけを載せました。全力を傾注して一刻も早く製本するよう努力して居ります。

○エンサイン・ローレル用のテキストは目下印刷中で近日中に出来上りますので、部数をまとめておいて下さい。両者共一五〇円か二〇〇円の予定です。（一応一五〇円として注文して頂き度いと思います。発送は現金を伝道部に送付しないと致しませんから、両者共予約金と共に申し込んで下さい。



## 「あらさがし」

あなはた人のあらさがしが好きではありませんか。あなたはそうするとどんな気持ちがしますか。あらさがしをすると人格が高くなりますか。あらさがしのようなことをすると何かためになりますか。あらさがしをすると善い性格の人になりますか。あらさがしは高尚な感情から起るものですか。あなたが或る人のことを話していたとして、もしその人があなたの目の前にあらわれたら、その人の欠点ばかりを言うでしょうか。それであなたは度量の大きな人間だと感ずるでしょうか。あなたとは逆に、あなたに批評されている人々にはどんな影響を与えるでしょうか。あらさがしはその人々をもっとよい人間にしますか。その人々の評判はよくなりますか。その人々の社会的の努力は増しますか。あらさがしでその人々の徳が進みますか、ほかの人からあらさがしをされてよい気持ちがしますか

以上の質問に対する答えはどの場合もみな「そうではありません」という言葉だけであります。それならなぜ自分だけでなく隣人にも害を与えるようなことを好んでするのですか。

では、これから「あらさがし」という行為を分析してみましょう。あらさがしはわるいことです。なぜならば、あらさがしは個人に害を与えるつもりで、ねたみやにくしみのこころから起るからです。それには「卑劣」というマークがついています。それは何でもないようなことをとがめます。あらさがしをすると心が狭くなります。あらさがしは、良いところをできるだけ小さく見て、わるいところをできるだけ大きく見るからわるいことです。あらさがしはちいさな心、礼儀を知らない心から起ることです。あらさがしは危険である、というのはそれがくせになるからです。一度身についてしまうと、友だちや同僚の品性をきずつけるような批評をほとんど本能的にするようになってしまいます。あらさがしには何らはっきりした根拠はありません。あらさがしという有害な行為をする人々は、しばしばうそを作りあげたり、あてこすりを言ったり、うわさを流したりします。このようなことがあるので、あらさがしは卑劣な有害な行為であります。そして、この誘惑にかかる人がひじょうにたくさんあります。私たちの教会が組織される前に、主なる神は、将来教師として奉仕をする神権者の人々の守るべきことの大体を教えて、うそを言わないように、かげ口を言わない様に、また悪口を言わないようにせよと仰せになりました（教義と聖約二十〇五十四参照）。その後また聖徒たちに戒めを与えて「互いに欠点を探すを止めよ」（教義と聖約八十八〇一二四）と仰せになりました。あらさがしは一致協力の敵であります。それは家族の団結を弱め、友情を破壊し、町や村の能率に害を与え、また地方部や支部の能率に害を与えます。

中でも最も不幸なのは、あらさがしによる無実のぎせい者です。この人々の中には教会の大幹部や伝道部地方部支部の幹部の方々があります。主なる神に承認されたこれらの人々が不正にとがめられ非難されるのをごらんになったら、主なる神はどんなに悲しくお思いになることでしょうか。右の手を挙げて下さいと言われたときに、すぐさま右の手を挙げて支持をするけれども、そのあとからすぐさまあらさがしをして支持の誓いをひっこめる人たちは正に背教者たちです。主なる神は御自分が油そそぎたもうた者を悪く言う人たちの行くさきを宣言しておいでになります（教義と聖約百二十一〇十六参照）。

あらさがしはまことの宗教の敵であります。主イエスは「人をさばくな。自分がさばかれないためである」（マタイ伝七〇一）とお言いになりました。祈りの模範をお示しになったとき、主イエスは「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をおゆるしください」（マタイ伝六〇十二）と言ってゆるしの大切なことを強調なさいました。私たちがあらさがしの悪いくせにうち勝たなければ「ゆるし」のあるはずがなく、「ゆるし」がなければ「救い」のあるはずがありません。

ジョセフ・フィールディング・スミス著

# 末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋　33

## 第三部　オハイオおよびミズーリ時代

### 第十九章　ジャクソン郡からの追放

（千八百三十三年）

**二十一、法律を守らせようとするこっけいな努力（つづき）。**　これより前、ウェルズ氏は知事の命によってジャクソン郡における暴行事件をしらべるように派遣されてきたのであるが、暴徒のごう然とした態度は、法の威厳を保つよりはむしろ喜んで暴徒の怒りをなだめようとしていた役人たちを明らかに威嚇していた。

アッチソン大尉は彼の務めが終ったと知らされるや否や証人たちをつれ「ヤンキーゾーゾル」の速い曲に足を合せて町の外までかけ足進軍、まもなく野営地に戻った。この時の証人の一人ウィリヤム・W・フェルプス長老はこのこっけいな処置を次のように誌している。

「この命令は明らかにいつもの暴徒すなわちジャクソン郡の市民たちが急速に集っていることに基づいて。また彼らがこのように荒れ狂った暴民政治的の様相をとっていることに基づいて出されたのである。大きな名誉はアッチソン大尉の豪勇と親切な行いに帰すべきである。私は軍人としてまた兵士としてかの将校や兵隊の行ったことはひじょうに立派であると言えると思う。この市民兵が来てもこなくても、裁判がみじめな結果に終ることを私と同じく知っていたから、なおさら彼らは立派であると思う。……このようにして、裁判と証人とを保護するために知事が命じてつかわした護衛を以てしても賠償を得るあらゆる望みは絶えた」。

# 第二十章　祝福師の祝福——シオンの陣営

（千八百三十三—千八百三十四年）

**一、祝福師の祝福。**　千八百三十三年十二月十八日、大勢の長老はカートランドの印刷所に集って、印刷機をそれに関係のある一切のものと共に主の御用に立てるために奉献した。「イーヴニング・エンド・モーニングスター紙」の増刷第一頁がこの機械で印刷された。それはインデペンデンスの印刷所が復興できるまで、カートランドでその定期刊行物をつずけて行くことにきまっていたからである。

この時長老たちが印刷所に集っていた間に、予言者ジョセフ・スミスは「この神権の時代」における最初の「祝福師の祝福」を施した。予言者は教会内に於けるすべての権能の鍵を保有していたから、これを行うのは彼の特権であった。またこの事実によって、その時誌された議事録の中には教会の最初の祝福師であると言われている。この時予言者の按手によって祝福を受けた人々はオリヴァ・カウドリ、予言者の両親、三人の兄弟すなわちハイラムとサエムルとウィリヤム・スミス等であった。予言者と共に神権の鍵をもっていたオリヴァ・カウドリもまた多くの「祝福師の祝福」を施した。ジョセフ・スミス初代は、教会の全会員の頭に祝福を施す鍵を保有するために祝福師たる神権者に按手聖任された。この権能を持つことは彼の権利であると主が啓示したもうたからである。彼はまた大管長会の中にあるジョセフに対する副管長補助として特に任命されたが、後になって予言者の兄ハイラム・スミスと予言者の叔父ジョン・スミスもこの職に特に任ぜられた。

**二、最高評議員会が組織される。**　千八百三十四年二月十七日、カートランドにあるジョセフ・スミスの宅で「この神権の時代」に於ける最高評議員会が組織された。大管長会がこの評議員会を管理し、次の兄弟たちが評議員として選ばれた。

すなわちジョセフ・スミス（初代）、ジョン・スミス、ジョセフ・コー、ジョン・ジョンソン、マーテン・ハリス、ジョン・S・カーター、オリヴァ・カウドリ、サムエル・H・スミス、オルソン・ハイド、シルヴェスター・スミスおよびルーク・S・ジョンソン等の人々である。

この処置のとられる数日前に、予言者は評議員会を行うやり方を説明しておいた。予言者は「誰であってもその心が純くなければ評議員会で問題を判断する能力はない」と言った。古代の評議員会はきびしい礼儀作法に従って行われた。すなわち誰であってもささやいたり、部屋を出て行ったり、協議をするために出された事以外のことを考えることを許されなかった。もし管理職員が部屋に留っているなら、聖霊を得て義しい決定に達するまで他の者たちも同様にするはずであった。

この高等評議員会が組織されると直ちに処置がとられるようにまっている事件がたくさんあったので、一両日内に数回の裁判が行われて、教戒すべき件に宣告が下された。この際協議された一つの問題は次の通り「教会の役員であって知恵の言葉を充分に教わって知っている者がこれに従わない時、それはその役員から職を剝ぐに足るほどの罪であるかどうか」ということであった。これについて自由に充分な討議を行ってから、管理者であったジョセフ・スミスは彼の決定を次のように下した。すなわち「知恵の言葉を正しく教わ

ってから、教会の役員である者がそれに従うことを怠るならば、何人といえども役員たるにふさわしくない」と。この決定は全員一致の挙手によって確認された。

**三、シオンは移るべからず。**　千八百三十三年十二月十六日、ジャクソン郡から教会の会員が追放される理由を示した啓示がジョセフ・スミスに与えられた。それにもかかわらず主は「シオンの子ら如何に追いはらわるるも、シオンはその場所より移るべからず」とはっきり仰せになった。時節がくると、主はシオンを贖って主の民のために怒りの刃を下したもうであろう。また万国の民の邪悪のさかずきが満ちる時に、主の憤りはかぎりなく彼らに注がれるにちがいないと仰せになった。聖徒たちは法官の前に「つぐないと損害の賠償を受くるよう切にねがいつずけよ」と命ぜられた。法官がもし聞かなければ知事の前に、知事から賠償を得ることができなければ大統領の前にねがえ、而して大統領がもし聞かなければ主は「国民を苦しめたもう」にちがいない。

教会は、聖徒らが嗣業として持つためにジャクソン郡とそのとなりの郡の内で土地を購めよと命ぜられた。さらに、一つの「たとえ話」の中で主の家の勢力をよせ集めよと言われた、すなわち「わが家の全勢力なるわが兵者わが若人と、わが家の力なるすべてのわが僕の中の壮年なる者とをひきつれ、直ちにわが葡萄園の地に行きてわが園を取り返せ。こはわがものなればなり。われ価を以てこれを購めたり」と。

千八百三十四二月二十四日、主はさらに、もし聖徒らがその時から悔改めて主の誡命を守るならば、聖徒らは即刻敵を「征服し始めん」、しかしもし聖徒らがゆずりを汚すことがあるならうち倒されるにちがいない。それはもし彼らがゆずりを汚すなら、主はこれを助けないからであると宣言したもうた。また主は「シオンの贖いは必らず権能（力）によりて来らざるべからず」、従って聖徒らはすでに命ぜられたように金銭を集めて土地を買い、而して若き者壮年者はシオンに集ってそれを贖わんことを努めよと宣言したもうた。

**四、シオンの陣営。**　この指令に従って、シオンへ行く志のある者を求める呼び声が発せられた。五百人が入用であったが、それでも主は「汝ら五百人を得る能わずば、熱心にこれを求めよ。おそらくは百人を得るならん」と仰せになった。百人以下を以てしては行くはずではなかったからである。

千八百三十四年五月一日、これら有志の一部がカートランドを出発、つずく五月の五日ジョセフ・スミスとのこりの人々が旅立った。カートランドを西に去る約八十キロのウエスト・ポルテージに於てこれら二つの隊は合流し、それから先の旅行をするためにいくつかの部隊に組織された。

各部隊の編制は次の通り、すなわち、「隊長一人、炊事係二人、焚火係二人、テント係二人、水の係一人、使い走り一人、馬車係兼御者二人、給養係一人、合計十三人」であった。彼らは毎晩寝る前にラッパの音と共に各自のテントの中で主の前にひざまずいて祈りを捧げた。また毎朝四時ごろに吹きならされるラッパの音によびさまされて、各々はその一日主が祝福を賜うよう再びひざまずいて祈った。彼らは自分たちが通りすぎる地方で反対が起らぬように旅をしながら自分たちの身元を知られぬように努めた。ところが実際には幾人かの敵とスパイがあとをつけて居て、彼らが何の目的で旅をしているかを知るために時々敵の代表者が彼らに近づいてきた。そ

して次のような質疑応答がしばしば交わされた。
「君たちはどこから来たか」――「東部から」
「それでどこへ行くのか」――「西部へ」
「何のために」――「どこで一番安くて一番良い土地が得られるかを見るために」
「この部隊の指揮者は誰か」――「誰それとはっきりきまってはいない」
一行はデイトン、インディアナポリス、スプリングフィールド、ジャクソンヴィル、イリノイを通り、ミシシッピ川をわたってミズーリへ入った。白レーマン人ゼルフの遺骨が発掘され古代の塚が見つかったのは、ジャクソンヴィルの西、イリノイ川の岸辺の近くであった。

これは六月の一日ころであったが、その三日に一行がまだ川岸に野営して腹ごしらえをしているとき、予言者ジョセフが馬車の上に立ち上り次の予言をした。すなわち、

「彼らの間に手に負えぬ無法な精神があらわれた結果、陣営は天のこらしめを蒙り疫病にかかった羊の如く死ぬにちがいない。さりながら、もし彼らが悔い改めて主の前にへり下るならば、そのこらしめは大いに避けられるであろう。しかし、主が活きたもうごとく確かに、この陣営の隊員はその始末に負えぬ気質があるためこれから苦しむにちがいないと、と主が私に啓示したもうたと私は言った」。

この警告があってさえも、陣営の隊員の中に不平をならべ仲間のあち探しをする者はなおあとを絶たなかった。

**五、ダンクリン知事に伝える言葉。** これまで受けた数々の啓示によって行動し、ミズーリに居た兄弟たちは州の判事と知事に向って補償をせがむことを止めなかった。千八百三十四年五月二十九日に請願した後。再び六月の五日にクレー郡の聖徒たちは知事に請願を行った。そこで六月の六日、知事はジェー・ソーントン大佐に書簡を送って知事に提出された要求の中に聖徒の正しい理由があることを認め、次のように述べた。

「私はどちらの側にも義務がある者ではないから、私の義務を遂行するに当って何らの当惑も感じない。たとえそれが最も遺憾きわまることであっても。私が今両者に対して立っている関係の中で何を為すべきかは明瞭簡単である……モルモン教徒の所有する権利くらい明々白々たる権利がどこにあろうか。彼らはジャクソン郡にある彼らの家庭から追い出されたが、元の所へ帰って彼らの土地に住むべきである。しかして、政策上彼らにその権利をすてるかまたは限定をするよう説得をすることができなければ、州知事として私のとるべき道は明瞭である。わが合衆国の憲法は宣言している、すなわち『各州の人民は、その各州における市民の特権と自由とをすべて受くる資格あり』と」。

それから知事はソーントン大佐に向って、聖徒らは所有の財産を売って他へ移るか、然らずんば平和のうちに難局を解決すべく努力する、そうすれば彼も市民のうちに「モルモン教徒」に対して行った「非合法的決議を取り消し」法律に従うことに同意させるように努力する。もしこれがみな失敗して、彼らがその土地を分けることに同意することができないならば、彼はその目的に一致するように行動せざるを得ないとして、追放された聖徒らにその財産を支配するよう正義のために援助を与えるほかはないことを述べた提案を行った。

# 扶助協会レッスン

**「神学」—教義と聖約**
（一九六二年十月二日用）

**第四十一課　シオンの中心地**

テキスト「教義と聖約」第五十七章五十八〇一—四

目的　昔の予言者たちがアメリカ大陸に新エルサレムを先見したこと、およびシオンに関する主の約束はかならず成就することを学ぶ。

**「一般的背景」**

千八百三十一年は予言者ジョセフ・スミスの生涯の中で、また従って私たちの教会の歩んできた道の中で多くの事があった年でありました。この年には多くの重要な発展がありましたが、中でも予言者ジョセフ・スミスが始めてカートランドに到着したことは特筆すべきことであります。予言者は七月の半ばに到着してからミズーリ州ジャクソン郡に六ケ月たらず滞在しました。

このころモルモン経が始めて出版されましたから、これによって聖徒たちは、昔の聖典に予言されている新エルサレムがどこに建てられるであろうかということを推測し始めました。前にジェレド人の予言者であるイテルは末日の世に起るいろいろな出来事を予言で教えましたが、その中で新エルサレムはアメリカ大陸に建てられるはずであると言いました（モルモン経イテル書十三〇二—十一参照）。その後数百年たって、復活なさったキリストはニーファイ人に同じことをお教えになりました（モルモン経ニーファイ第三書二十〇二十二参照）。また救い主はつずいて、末日の世になって神のまことの教会がアメリカ大陸に建つと共に、末日のレーマン人も含んでイスラエルの民はことごとく集り、力を合せて新エルサレムの市を建てるにちがいないと説明なさいました（モルモン経ニーファイ第三書二十一〇二十—二十九参照）。主なる神はアダムから七代目のエノクに向って、かって天に取り去られた彼の市（エノクの市）とは「福千年」の始まりに、地上に建てられるシオンの市と共になるにちがいないと仰せになりました（「高価なる真珠」七〇六十二—六十四参照）。

多くの聖徒が新エルサレムの建てられる地点について関心をもっていましたが、中でもハイラム・ページはこの聖なる都の建てられる場所を知っていると主張しました。その結果、主なる神は当時（一八三〇年九月）その場所をまだ人に知らせていない、しかしそれは「レーマン人の国境なるべし」と啓示をなさいました（教義と聖約二十八〇九参照）。

千八百三十一年二月に聖徒たちは、もしもこの点についてお知らせのあるよう祈るなら啓示されるにちがいないということを啓示によって知りました（仝上四十二〇六十二参照）。このことがあった翌月、新エルサレムは西方の土地に建てられるということが知らされました。その準備をするために当時の長老たちは福音を宣べ伝え、教会を強くしなければなりませんでした（仝上四十五〇六十四—六十六参照）。

千八百三十一年の六月カートランドで開かれた大会が終るとき、主なる神は聖徒たちに向ってミズーリの地に集れと仰せになりました（仝上五十二〇二、四十二—四十五参照）。

つずいて千八百三十一年の七月半ばに、予言者ジョセフ・スミスはミズーリに到着し、長い間待ちに待っていた兄弟たちと共に喜びました。予言者はこの「約束の地」に着くや、霊感を受けて次のように叫びました「荒野がバラの花の如く栄ゆるはいつの日ぞ。シオンが見事に建てられ、末日に万国の民が入り来るべき神殿の高く立つのはいつの日ぞ」と（教会記録歴史一〇一八九頁参照）。これらの問に対する答えは、千八百三十一年七月に第五十七章の啓示を受けたときに与えられました。

**「第五十七章の啓示と新エルサム」**

第五十七章の第一節、第二節を見るとミズーリの地が聖徒らの集まるべき地であるとはっきり教えてあります。

「この故にこは約束の地にしてシオンの市の建つべき所なり」（教義と聖約五十七〇二）。

主なる神は、シオンの中心となるべき地がミズーリ州インデペンデンスであると啓示した後で、嗣業の地を買えと仰せになりまし

た。それは「ユダヤ人と異邦人との間をまっすぐに走る境界線に至るまで」（教義と聖約五十七〇三―五）の土地でありました。このユダヤ人とはすなわちレーマン人もしくはインディアンのことであります（教義と聖約十九〇二十七、オムナイ書十四〇十九参照）。まだほとんど人が住みついていないこの土地で、聖徒らは平和な方法で土地を手に入れようという忠告を受けました。

この啓示の後の方では、前の啓示でこれらの召しを受けた数人の兄弟たちに数々の指示が与えてあります（すなわちシドニー・ギルバート五十七〇六、五十四〇参照、エドワード・パートリッジ五十七〇七、四十一〇九、四十二〇十参照、ウィリヤム・W・フェルプスおよびオリヴア・カウドリ五十七〇十一―十三、五十五〇四参照）。

そして長老や教会員たちに導きを与えるためにさらにまた啓示が示されることを約束してこの第五十七章の啓示は終っています（仝上五十七〇十六参照）。その通り翌八月の一日に啓示が与えられ、その中で主なる神はミズーリ州にある神の教会に対する計画を述べておいでになります。

**「第五十八章の背景」**

ニーファイ人たちが、古代のアメリカは自分たちにとって約束の地であると知っていたと同じように、末日聖徒たちもまたアメリカという約束の地の中でミズーリの地が「約束の地」であって、義しい人々がキリストの再臨を前にしたなやみの時代にここへ集るのだということを知っています（教義と聖約五十七〇―一二、四十五〇六十二―七十五参照）。

予言者とその一行がジャクソン郡に着いた後の始めて日曜日に説教会が開かれ、そこで二人の人がバプテスマを受けました。

**「シオンの始まり」**

第五十八章の啓示を受けたすぐ前に、ニューヨーク州コーレスヴィルの会員、つずいてオハイオ州トムソンの会員たち約六十人が、神の命に従って、ミズーリに着きました。この支部について、またシオンの始まりにこの支部が演じた役割りについては予言者ジョセフ・スミスが次のように誌しています。すなわち「一軒の家を建てるための最初の丸太は、イスラエル十二支族を代表する十二人の人々が曳いた」と。またシドニー・リグドンが、聖徒の集合するために土地の献納を行いました。

ジョン・ホイットマーの書いた「教会歴史」を見ると、私たちは聖徒たちがこの新しい土地に於いて神の誡命を守ると誓約したことがわかります。予言者ジョセフ・スミスの時代に、このミズーリ州ジャクソン郡の有様がどのようであったかは予言者の日誌を見るとよくわかります（教会記録歴史、第一巻一九七―一九八頁参照）。

**「希望の言葉が伝えられる」**

すでにジャクソン郡に着いていた聖徒たちのために、またあとから来る聖徒たちのために、主なる神は将来おそい来る患難の予言をすると共に、将来に希望を持てということをお伝えになりました。神がお伝えになったこの言葉は直接ミズーリの地に関係のある言葉でありました。すなわち、

「われ誠に汝らに告ぐ、生くるも死ぬるもわが誡命を守る者は幸福なるかな。およそ艱難のうちにも忠実なる者の報いは天国に於て更に大いなるべし」（教義と聖約五十八〇二）

この聖句を見ると予言の要素が強くあらわれています。そして、希望と艱難という二つの題目を強調して「われ誠に汝らに告ぐ」という力強い言葉が使ってあります。

万人は神の律法を知っている故に律法を実行するように期待されていても、末日聖徒はこれとちがってバプテスマを受けてキリストの贖罪を信じている故に神の誡命を守らねばならない義務があります（教義と聖約十八〇四十二―四十五）。聖典には始めから終りまで約束がしてあります、死に至るまで忠実にして変らない人々には豊かに祝福が与えられると。私たちが現在勉強している啓示の中には（五十八〇二参照）「生くるも死ぬるも」神の誡命を守れと言ってあります。私たちが現世を離れるときに、私たちの肉体を離れる霊は、現世に於ける性質能力をもったまま霊界へ移るということを私たちは知っております（アルマ書三十四〇三十二―三十四参照）。そしてこの霊が再び肉体と結合するとき、私たちは神の誡命に従うことが幸福をもたらすことを悟るにちがいありません。

艱難にあっても忠実でなくてはならないという勧告を受けると共に、すぐに聖徒たちは、その時ミズーリの地が永遠の住家であるこ

とがわからないにちがいないと言われました。聖徒たちが次の啓示の言葉の意味を完全に悟っていなかったとしても、聖徒たちはあらかじめ教えられたのであります。

「汝らは今後来らんとする事などに関する汝らの神のみこころ、および艱難の後につずいて来るべき栄光につきては、現在肉眼を以てこれを見ることを得ず。多くの艱難の後に祝福は来る。この故に汝らが大いなる栄光の冠を受くべき日は来るなり。而してその時は未だ来らずといえども近きにあり」(教義と聖約五十八〇三—四)

その後まもなく、ミズーリに於ける聖徒たちに迫害があとからおそってきました。将来に起ることの詳細が「父なる神」によって知らされなかったのは、神の民がこの世のつまずきを超えて最後の光栄を見ることができるようにという賢いみこころによるものであります(教義と聖約の註解「英文」三三四原参照)。

あとのレッスンの中で、聖徒たちがなぜ迫害を蒙ったかということを学びます。しかし、ここでは二つの理由を述べておきましょう。第一の原因は、末日聖徒のもっていた信仰、とくに福音が昔あった賜と権能とをもって回復されたという信仰です。たとえば、千八百三十三年七月二十日にミズーリの暴徒が出した「公けの宣言」の中では「聖徒たちは、天から直接啓示を受け、また昔の使徒や予言者のように奇蹟を行うふりをしている」と言ってあります。第二の原因は、聖徒らの側に背罪があったために、聖徒らはこらしめを受け当時シオンを元通りに建てることを許されなかったのであります(教義と聖約百一〇一—十、百三〇一—四、百五〇一—六参照)

聖徒たちが数々の艱難に逢うぞという予言は、聖徒たちがミズーリから、つずいてイリノイから、つずいてロッキー山中へ立ちのかなくてはならぬようになったことによって事実となりました(教義と聖約の註解「英文」三三一—三三二頁参照)。大部分の聖徒が「多くの艱難」を耐えしのいだのは彼らのもっていた強い信仰によるのであります。ブリガム・ヤング大管長自身が語っている自己の経験も、またほかの多くの人々の経験であったと言えるでしょう。

「われわれはひじように多くの経験、言うなれば多くの艱難を経てきた。それでも私は兄弟たちに私がこれらの艱難を艱難とは思っていないことを知ってもらいたい。なぜなら、これらの艱難はすべて私にとって喜びであり愉快であったからである。私はここ(ソルトレーク)へ来るまでに、主なる神が私にたまわった此世の財産、それも私の住んでいた国は小さくなかったから、かなりの財産を五度までも全部すてて来た」(説教集十八〇二三七参照)。

忠実な末日聖徒たちが艱難試練をふみこえて行く能力は、たとえそれらが人の世の常であろうとも、「汝らが大いなる栄えの冠を受くべき日は来るなり」(教義と聖約五十八〇四)ということを知って希望を抱いているによるのであります。

私たち末日聖徒は、予言者ジョセフ・スミスによって回復された真理の証詞が、主なる神のみことばはまちがいなく実現すると保証しているし、またこれからもかわることなく保証することを理解することができます。この神聖な約束がなかったなら、多くの人々は終りまで堪えしのぶのは困難であるということが解るでありましょう。

## 「来るべき光栄」

忠実な人々は結局一人のこらず「永遠の生命」をめぐまれるにちがいありません。その時、此世から去った愛する者たちと再会する喜びと、主権と栄誉という数倍する祝福をもって「永遠にふえる」喜びがあるにちがいありません。しかし現在の聖徒たちには、ミズーリの地(シオン)に約束されている嗣業はまだ実現していない「その時は未だ来らずといえども近きにあり」(五十八〇四)と言われています。「この啓示の言葉が印刷された時よりも今はずっと近づいている」(教義と聖約の註解「英文」三三五頁参照)。

このいちじるしい真理は第五十八章の第五節にあります。すなわち「わがあらかじめ告ぐることを心に憶え、かくして汝ら須らく心に銘じて次に来るべきものを受けよ」(教義と聖約五十八〇五)

主なる神はその民に、多くの艱難の後に多くの祝福が来ると約束をなさいました。しかし当時聖徒たちは、シオンが元通りに回復する様を見ることができませんでした。現在の私たちに対しては、シオンに関する数々の予言がことごとく実現するにちがいないとうけ合ってもよいでしょう。末日聖徒

に与えられた豊かな遺産の一つは数々の予言が成就している時期に生きているということであります。予言のもっている大切な目的の一つは、予言者の使命を確認する働らきをすることであり、また予言の成就によって人々が心に神のみことばに従いたいというねがいを起すことであります。これらの目的から考えてみて、末日聖徒はシオンの将来についてどのような信仰をもつべきでありましょうか。

**「聖徒がシオンに集合するわけ」**

ミズーリに集れという誡命に対してはいくつかの理由が考えられます。この啓示から、聖徒たちはシオンに基礎を置かなくてはならなかったことは明らかであります。聖徒たちがこの仕事を始めたならどんなことが起ろうとも、キリストの再臨に備えてシオンが目ざましく栄える時が来るでありましょう。「シオンの贖い」は次のような理由を民が知って生活の中で十分に受け入れるときにだけ実現するでありましょう。

「見よ、誠にわれ汝らに告ぐ、この目的のためにわれ汝らを遣わせるなり。そはすなわち汝ら従順ならむがため、またこの後来らんとすることの証をなす心構えをなさんためなり」（教義と聖約五十八〇六）。

イエス・キリストの教会は神の指揮の下に動いております。救いを得るためには精密に誡命に従うことが何より大切であります。教会の指揮をするには、神の啓示を受ける予言者を通して「父なる神」のみこころが指図をしなくてはなりません（教義と聖約の註解「英文」三三六頁参照）。

第五十八章第六節の聖句には、従順な人々は予言者を通して啓示された真理を証しするというもう一つの目的があらわれています。

千八百三十一年の聖徒たちは、すでに述べた数々の誡命を守ることにつけ加えて、シオンのいしずえを置くという光栄を賜わるはずでありました（教義と聖約五十八〇七参照）。予言者ジョセフ・スミスは千八百三十一年八月三日に当時ミズーリ州インデペンスであった地の僅か西方の所に神殿の敷地を献納いたしました。この時の献納式の一部として詩篇第八十七が読まれました。この神聖な場所をやがてとり巻くにちがいない栄光と、何百年も前にすでに神殿について予言されていた言葉とを考え合せると、私たちは「この時の光景は壮厳で人の胸を打つものがあった」と言った予言者の言葉がよくわかるにちがいありません。

この啓示の第七節に示してある通り、聖徒たちがシオンに集ってきた第四の理由は、その地について証詞をするためでありました。

また、シオンを建てることに現われている主なる神のもう一つの目的は、第八節から第十節にわたって誌してありますが、それは「教義と聖約の註解「英文」三三六―三三七頁」にもある通り、シオンの市の石ずえが置かれた暫く後に実現するはずでありました。

**「神の能力の現われる日」**

この啓示（第五十八章）の第十一―十二節には、末の日にあらわれるシオンの光栄についてさらに告げてあって私たちの注意をひきます。これらの節に示してある言葉の解釈は、救い主が「福千年」の統治をお始めになるときに現われるいろいろな出来事を教えています（教義と聖約の註解「英文」三三七頁参照）。

神の言葉は必らず成就するという保証は、シオンを建てる最後の理由になっています（教義と聖約一〇三十七―三十八）。それはすなわち、証のことばすなわち律法が世を照らすためにシオンの市の門から出て行くはずであるということであります（教義と聖約五十八〇十三）。

**「シオンに関する将来の光栄」**

ブリガム・ヤング大管長は、聖徒たちがミズーリ州のシオンの市を建てに戻ってきたのを見て次のように言いました。

「もしも私が示現を受けたとあえて言うならば、私たちがミズーリを追われる前に私は一つの示現を受けた。そしてその中で私は人々が東へ、北へ、西へ行くのを見た。しかし、私たちは西の方からジャクソン郡へ戻って行くべきである。この人々がシオンの中央ステーキへ戻って行くとき、この人々は西の方から行くにちがいない」と。

シオンに神殿を建てるのに、いろいろな事情が聖徒たちをさまたげましたので、主なる神は当時この重い責任を聖徒たちの肩からとり去っておやりになりました（「教義と聖約」百二十四〇四十九―五十一）。主が自ら任命なさった主の僕べの口から召しが発せられるとき、この時代の人々に命ぜられる通りシオンの市と神殿とが建て

られるにちがいありません（「教義と聖約」八十四〇四―五）。

私たちの教会の会員が彼らの嗣業の地から追い出されて、その地からほかへ移らなければなりませんでしたから、将来彼らは、昔から幾度も予言されているシオンを主のために建てる目的で戻ってくるにちがいありません（仝上百一〇十七―十）。

この事業が着手されるとき、聖徒たちは神の能力によって導かれるでありましょう。やがて、神の民は、偉大な民となり主なる神の前に聚くされるにちがいありません（仝上百五〇十一―十三、三十一―三十二）。この時「全財産奉献」の律法を含めてあらゆる律法と誡命は実行されるでありましょう「シオンとシオンの律法に関しわが与えられたるこれらの誡命は、シオンの贖われし後にこれを遂行して成就すべし」（仝上百五〇三十四）。

予言者ジョセフ・スミスが始めてミズーリの地をながめた時、彼の先見は当時その地にあったいろいろな不利益を見抜いたばかりでなく、将来あるはずの偉大なるシオンも見抜いたのであります。予言者は、

「しかしながら、昔の予言者たちが末の日に於けるシオンについて予言した言葉を思い起すとき、これらの障害はことごとく消えうせる。実にレバノンの栄光はシオンの上に来る、もみの木、松の木、つげの木みな共に主の聖所を美しく飾らんがために来る、これ主なる神がその足台となる所に栄光あらしめんとしたもうためである。主なる神は真鍮の代りに黄金を、鉄の代りに銀を、また木材に代って真鍮を、石に代って鉄をもち来りたもう。而して肥えたる物の宴が義しき者たちに供えられる時、まことに主なる神の輝やきが主の民のためを思うわれらの温き心を照らすとき、人間の打算とこの世の空しき栄えは消え失せ、われらは『シオンより美の極致を神輝かせたまえり』と叫ぶのである」と言いました（イザヤ書六十〇十二―二十二参照）。

**考察のための質問**

㈠新エルサレムに関して述べたいくつかの予言を挙げなさい。

㈡教義と聖約第五十七章の中でインディヤンのことをユダヤ人と言っているのはなぜだと思いますか。

㈢「聖徒たちはミズーリから追い出される前にすでに艱難に逢うことを警告されていた」。このことについて論じなさい。

㈣聖徒たちがミズーリから追い出された理由について二つの理由を挙げて答えなさい。

㈤聖徒たちがこれまで迫害に屈しないで立ち上ることができたのは何によると思いますか。

「社会科学」千九百六十二年十月二十三日

**「教会制度の基礎」**

**第一課「神聖」という意味**

目的―神聖な（神の）律法を定義することによって、教会制度の神聖な性格をしっかり心に銘じさせること。

**「神を信ずる信仰が根本である」**

私たちが神の律法が何であるかをはっきりと理解し、神に権威と権能をもつ権利があることをはっきりと理解し、そして私たちの行いを神の知恵と一致させるためには、第一に神が真実生きたまい「神に来る者は神のいますことを必らず信ずるはずである」（ヘブル書十一〇六参照）という前提を無条件に受け入れなくてはなりません。

モーサヤ書の四章九節には「神を信ぜよ、神がましますことと、神が天地の間の万物を造りたもうたことと、天でも地でも全知全能であることとを信ぜよ。また、人間は主の悟りたもうことをことごとくは悟れないことを信ぜよ」と言ってあります。

神が真実生きてますますことを受け入れるのは、私たちがいつでも得ることのできる証拠によって支持されている信仰による行いであります。

神の存在を証明する証拠には二つのおもな源があります。第一は宇宙と私たちの住んでいる地球に歴然とした秩序があることであります。地球は最高のお方である神の御手のわざに満ちみちて居り、それを証明するのは地球がその軸のまわりを規則正しく廻転し、同じ速度で太陽のまわりをまわり、昼夜が正しく交替し、四季がめぐり、あらゆる生き物が生を営んでいることであります。そして神の御手のわざに成る最高のものは、神があらゆる生き物を治める権能を与えたもうた「人間」であります。第二は、聖典の中に見出される証拠であります。聖書は神が人間をお取扱いになった歴史の記録であって、その中には創造の歴史

と人間が自然の力を価服し始めた報告とがのっています。

**「聖典の支持」**

神が真実生きたもうという証拠を支持しているのは聖書ばかりではありません。西半球（アメリカ大陸）に於ける神の僕べが編集した「神と人間との交渉」を誌したモルモン経は、神が生きたまい、神はその創造物のうちで人間のことを最も心にかけておりたもうという、聖書と同じ大きな真理を証詞するもう一つの証人であります。

ここに述べた「聖書」と「モルモン経」の二つの聖典には、神が真実生きてましますという証拠がいっぱいのっています。これらの証拠は、時によって、人間の幸福のために与えられる知恵と勧告の言葉となってあらわれていることがあります。またその証拠はイエスに「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」という御声が聞えたことにもあらわれています。このとき父なる神はイエスが「神の御子」にまちがいないことと、イエスが提出なさった「生命と救いの計画」を承認なさったことを言いあらわしておいでになります。

「イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神のみたまがはとのように自分の上に下ってくるのをごらんになった。また天から声があって言った『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』」（マタイ伝三〇十六―十七参照）。

この後、西半球（アメリカ大陸）に於ても同様の出来事が起りました。モルモン経のニーファイ第三書十一章五―七節には、永遠の父なる神がキリストのことをはっきり言っておいでになる記録がのっています。

「さてこの声は三度まで聞えたが、かれらはこのたびはよく聞き分けるように心を注いで声のする方向へ目を向け、その声が出てくる天をじっと眺めた。すると三度目にはその意味がわかった。その声は『わが喜ぶ愛子を見よ。われはこれに由りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聞け』かれらに仰せになっていた」（ニーファイ第三書十一〇五―七参照）

近世に於て、予言者ジョセフ・スミスは父なる神とその御子イエス・キリストの御二方に親しくお目にかかりました。ジョセフ・スミスは二人のうちのお一人が他のお一人を指して「こはわが愛子なり。彼に聞け」と仰せになった御声を聞いたと世の人々に証詞をしました。この時「彼に聞け」と仰せになったのは、キリスト御自身が提出された「救いの計画」と共に、「救い主」となるキリストの使命を承認されたのであります。

**「神学の定義」**

聖典と神に関する組織的の知識とを、注意深く偏見をもたないで調べる「神の研究」を神学と言います。私たちが研究をするときにみたまによる霊感を受けるに足る信仰があるならば、神学という組織された知識から、私たちは、神が真実存在したもうことと神が人間に下したもうた啓示の本当の意味を知ることができるのであります。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は一人のこらず「みたまの賜」を受けております。この聖霊の証詞によって始めて、私たち教会員は「永遠の父なる神」とその御子イエス・キリストとが真実生きてましますことを証しすることができるのであります。

この証詞は、教会の会員であることを「確認」されたらひとりでに得られるのではありません。この証詞は私たちがけんそんになって、隣り人に奉仕をし、行いの法則、生きる道すなわち神のみこころを教える教えにあらわれている宗教と私たちの生活とを一致させるために心から努力をすることによって生ずるのであります。

**「末日聖徒の「神観」（神の概念）」**

末日聖徒にとって、「神」と言えばはっきりと「永遠の父なる神」と「御子イエス・キリスト」と「聖霊」とを指しています。それはこれらの神がその目的に於て「ひとつ」であるからであります。「神」の中には「神聖」という考えがあって、「生命と救いの計画」に関するすべてを含む「神」と人間との交渉について言われています。善いものはすべて「神」から来るのでありますから「神聖」であります。私たちは無条件に「神」が創造主であると認めています。使徒パウロはこれと同じ観点から次のように言っています。

「万物は天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これら一さいのものは、御子によって造られ、御子の

ために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている」（コロサイ書一〇十六―十七）。

ジョン・ティラー大管長はこの聖句を解釈して「もし、見えるものも見えないものも、彼によって造られ、彼のために造られたなら彼はわれわれの住んでいる地球もろともわれわれの知るすべての世界を支配し支えているのである。もしも彼がそれらの世界を支配しているなら、それらの世界は彼の支配に服し、彼の律法に服従し、彼の意志と能力とによって支配されている」と言いました（ジョン・ティラー「神の制度」一八五二年八月、一頁参照）。「教義と聖約」百三十二章十二節には「われは主なる汝の神なり。われこの誡命を汝に与う。すなわち人はわれに由らずまたわが律法なるわが言によらずして父に来るべからず、と主は言う」とあり、旧約聖書には「それ故あなたは今日知って心にとめなければならない。上は天下は地において、主こそ神にいまし、ほかに神のないことを」（申命記四〇三十九）と誌してあります。

これらの言葉から、末日聖徒にとって「神」という言葉は、すべて神聖なものは「永遠の父なる神」からその元を発しているので「清い、神聖な」意味があると結論しなければなりません。この意味に於て「清い、神聖な」ということは、神がこの地球上に住んでいる神の子たちの利益と進歩とに役立つようすべての時代を通じて啓示したもうたあらゆる戒めと導きと行為の法則について言われます。「あなたの義はとこしえに正しくあなたのおきてはまことです」（詩篇一一九〇一四二）。「主のまことはとこしえに絶えることがない」（詩篇一一七〇二）。

**「神は全知である」**

今までに述べたことを理解すると、私たちは「神の御言葉」が「神聖な律法」であると認めるにちがいありません。私たちの研究は、神が真実に生きてましますという前提の上に立っています。これと同じように大切なのは、神はそのつくりたもう無数の創造物についてあらゆることを知っておいでになるという考えであります。始め人間に、地に人を住まわせ、地を従わせ、地の上に住むすべての生きものを支配せよという勇気を促す言葉が発せられました。簡単に言えば、地球は人間のために設計されたものであります。しかしながら、人間はその中にある指導原理を発見して、自分の努力によって利益を得なければなりません。

前にはっきり言ったように、地球を含めた全宇宙は神の律法によって運行しております。宇宙にある諸々の星の運行や、いろいろな元素の働らきや、この地球上にある生命を支配するいろいろな法則は「神聖な律法」によって定まっております。人間はこれらの法則を支配する力も変える力も持っておりません。この大宇宙の作用は神の御手の中にあるのであります。神の知恵によって、宇宙はみこころのままに太初以来よどみなく運行をつづけております。

**「神の最高の創造物である人間」**

この宇宙はその完成の程度に応じて、人間が成長発達をし、その経過をたどるうちに、自分の利用と楽しみのために自然の与えるすべてのものを支配するために与えられた場所であります。

「われ誠に汝らに告ぐ、汝らこれを為さば地に満つるすべてのものは汝らに与えらるべし。すなわち野の獣、空の鳥、木によずるもの、地上を歩くものは汝らのものとなるべし。然り、また汝らの食物、衣服、家屋、小屋、果樹園、野菜畑、葡萄園など何れにしても、それらのために地より生ずるもろもろの草と善きもの、然り、すべてこれら季節によりて地より生ずるものは、皆人の為人の用いんために造られ、眼を楽しませ、また楽しく心を悦ばせんためなり。然り、これらは肉体を健やかにし人に元気をつくるよう、食物、衣服、味、香りのために造らる。而して、すべてこれらのものを人に与えるは神の悦びとするところにして、この目的のためにこれらは造られたれば、人は適量にこれを用いて貪らずまたは無理にとりて用うべからず」（教義と聖約五十九〇十六―二十）。

**「神聖な律法は神の子らの幸福のためである」**

「最初の神権」の時代から、神はこの地球上に住む神の子らにいつも現われておいでになります。神は終始一貫して、人間にわかる言葉で、人間の「ゆくさき」をはっきり告げておいでになります。ロレンゾ・スノウ大管長は「神の如く人は成るを得ん」という言葉で人間の「ゆくさき」を総括して述

べておられます。

人間に関する神のみこころは、人間がこの世から最大の利益を得ることのできる方向を教えておいでになる啓示を通してあらわれています。神の啓示はいつでも人間関係に関する律法に主としてかかわりがあるものであります。

**「私たちの宗教の社交面」**

すべての律法の根本は、父なる神からすべての人間は生れたのであるから、お互いはみな兄弟姉妹であるという根本精神にあらわれている愛の律法であります。神を愛するためにはまず隣り人を愛さなくてはなりません。神を愛し隣り人を愛せよという神聖な律法は、すべての律法の根本であります。

創造のときに、人間は社交的の者であることが認められました。創造主は「人が一人でいるのはよくない。彼のためにふさわしい一人の助け手をつくろう」(創世記二〇十八参照)とお言いになりました。アダムとイヴに与えられた最初の誡命は、地球を人間で充たせというのでありました。地球の上に人間がふえるにおよんで、人間と人間との作用という問題がふえてきました。カインとアベルとの間に起った争いは、人間と人間のあいだの交わりがいかに力強い作用をもち、また大切であるかを示すよい証拠であります。この争いがもとになって、私たち人間はみな「兄弟を守る者である」というもう一つの根本的の律法が生じました。大昔から主なる神さまは、人間の行為に関する神聖な律法を神の子らの前にひきつぎ保っていらっしゃいます。

キリストが此世で導きとめぐみを施しておいでになったとき、キリストは人類の「ゆくさき」をはつきりさせると共に人間の行為の法則をもう一度強調なさいました。キリストは「生命の計画」と人間に不死不滅と永遠の生命とをもたらすべきキリストの使命とをもう一度お述べになりました。これはどのようにして達成されるはずでありましたか。「永遠の生命」を得ることは、キリストの福音すなわち人間の行為を支配する神聖な律法と、福音の儀式に人間が従うことによって達成されるのであります。

私たちは「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何の約束を受けず」(教義と聖約八十二〇十)と言われています。また「そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの変らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち、われら何にても神より祝福を受くるときは、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり」(教義と聖約百三十〇二十—二十一)とも言われています。

天上に於て大会議が開かれたときに最も関心がよせられたのは、どのようにすれば人間がこの世の生活を最もよく利用できるかということでした。創造主である神の計画は人間に「自由意志」を与えるということでした。キリストは自ら進んで父なる神の計画を実施しようとなさいました。救い主は、神の法則と規定の下にあって進歩と発達をするために、人間に対して指図とはげましとをお与えになることになっていました。

人間はこの自由意志によって聞き、学び、選ぶことができます。神の律法は人間の為になるために与えられています。もし人間が、神の律法に従ってその生活を営み管理をするならば、自分が創造された目的を完全に達することができるでしょう。人間が理想の「ゆくさき」に達するのを助けるために、神の律法は制度として組織されており、神権すなわち神の御名によって行う権能によって、父なる神の住みたもう日の栄に昇って「永遠の生命」を必ず受ける保証を得ると共に、この世の生活に於ても十分な喜びを得るよう助けを与えるために運営されています。

**考察のための考え**

(一)末日聖徒の宗教が真実誤りのないことを証詞するために、神が生きてましますことはなぜそんなに大切なのですか。

(二)神が生きてましますことを支えている証拠の二つのおもな源になっているものは何と何とですか。

(三)永遠の父なる神の御声を記している次の参考書はどのような意義をもっていますか。

創世記第一章。

高価なる真珠第一章、第二章

教義と聖約八十四、八十八、百二十一、百三十、百三十二章。

**訪問教師のメッセージ**

**「教義と聖約」にもとずいて実践する真理**

## メッセージ第四十一

「人は熱心に善い働らきに従事しなくてはならない」（教義と聖約

目的―人が熱心に従事することのできる最も善い働らきとは、ほかの人々に愛と奉仕を施こすことであることを説明する。

今までの世界歴史を見ると、劇的な事実や新しい世界をつくりあげる画期的な事実がいっぱいにありますが、現代ほど危機に満ちた、しかしながらこれまでにないくらい私たちをふるいたたせる時代はありません。現代ほど「熱心に善いことのために働らく」ことが人間にとって必要であったことはかってありませんでした。熱心にとは、物事に精神を集中することであって、現在だけでなく将来のことにも精神を傾けるという意味をもっています。

もしも私たちが、心をかたむけ固い決意をもって努力しほかの人々を助けるならば私たちは「熱心に善いことのために働らいている」のであります。

現在世界に於ける思慮深い観察者たちは、今世界を覆っている重くるしい問題を永久的に解決する唯一つの答えは、奉仕と兄弟愛とお互いの間にある純粋の愛という領域にある、という結論にますます近づいています。

万人のもっている問題に対する解決法をご存じであった「救い主」は、この根本的な考えを、主なる神を愛し隣り人を愛せよという二つの誡命に「律法全体と予言者とがかかっている」（マタイ伝二十二〇三十六―四十参照）と仰せになりました。

自分たちはどのようにして熱心に善いことのために働らき、そうして現代の「せっぱつまった要求」に応ずるよう自分の助力を与えることができるだろうかと自問している人がたくさんあります。私たちの中には、自分の与えるささやかな助けも、世界を覆えている巨大な問題の前に立ったら何の力もないだろうと心の中できめてしまう誘惑にかかる人があるかも知れません。この疑問に対するはつきりとした答えが、最近ニューヨーク市に起ったある出来事にあらわれています。ニューヨークの地下鉄にのる多くの人々は、石けやはみがきの広告にまじって、「十誡」がのっている広告のビラを見てびっくりしました。その広告ビラの片すみには「ある友人が広告料を払った」としてありました。そのうちに、新聞記者たちは、これは記事になるぞと思って、この奇妙な広告をした当人が誰であるか探り始めました。いろいろ推理を働らかせた末、やっとこの広告主がどこの会社にも見られるただのタイピストであることがわかりました。このタイピストは、ほかの人々に善い影響を与えたいと思いたって自分一人でこの計画を実行したのでした。彼女は新聞記者たちに会ったとき、私は前にどこかで「小さな事でも世界を動かすことがある」と書いてあるのを読んだことがあります。それでこの広告を自分一人で出すために、毎月の給料約から倹約をして四百ドルのお金をためました、と言いました。この広告の結果、多くの人々の注意を神の誡命である「十誡」の上にひきつけるという立派な働らきができました。

私たちが「熱心に従事することのできる」善い働らきを探すに当って、私たちは今ここに述べたような劇的な方法を探し求めなくともよいのであります。私たちのできる善い働らきとは、もっと個人的な、もっと世の中に知られない性質の奉仕であってもよいのであります。私たちは、自分の隣り人のさびしさや悲しみや心配を軽くしようと努力することにより、また落胆しがっかりしている人々をはげましたり力をつけたりすることによって、友だちや隣り人に福音のもつ救いの真理をわけ与え、そして「熱心に善い行いに従事する」ことができるのであります。

「どんなに偉大な世界的英雄であっても、一日一日ほかの人々をしあわせにしようと思って自分の全生活をささげている一個人ほど英雄的な行いはできないであろう」という言葉があります。

それでありますから、私たちは一日のうちに必らず何か善いことをし、誰かの重荷を軽くしてやり「悲しんでいる者に元気をつけ、誰かを喜ばせ」て、一日を有意義に送る決心をしましょう。私たちはまた「たった今私たちの四方には善い働らきをする機会がいくつもある。善い機会が私たちのすぐ行くてにある」ことを忘れないようにしましょう。そして『いつかやってやろう』と言いながらその機会を逸してしまわないで、進んで何かよいことを今日唯今いたしましょう。

「仕事会」　千九百六十二年十月九日

「末日聖徒の家庭」

**考察その一**「末日聖徒の家庭はよく組織されている」㈠

目的―上手な家庭の経営は幸福な、健全な家族関係から始まることを示す。

私たちが最初にとりあげる「家庭経営」の主題は組織と計画ということであります。もし私たちが工業に科学的経営法が始めて用いられたことについて知識をもっているなら、「家庭経営」に科学的方法を用いることについてもよくわかるでありましょう。千八百八十年に、フレデリック・W・テイラーという人は経営について二十三年間研究した末「能率が科学的経営の最終目標である。而してそれは計画と組織と仕事場の仕事を巧みにすることを覚えることによって達成される」という学説を述べました。多くの国々がテイラーの能率学説を実際にためしてみましたが、この学説が二つのことに欠けているのを知りました。第一は、もし職工が自分の属している群の人々と満足な関係をもっていなければ、その職工から最も良い結果は得られない。第二は、もしその職工に何か創造的なはけ口が与えられないと、彼は不満足になり幸福でなくなり、ついに職を去ってしまう、ということです。

今私たちの前にある問題というのは、この工業的経営の方法をどのようにして家庭経営にむすびつけるかということです。あなたは「ダースで買えば安い」という記事を読んだことがありますか。もし読んだことがあるなら、あなたは科学的のアイデヤを家庭という場所へはじめて試みたギルブリーツの家族のことがよくわかっています。彼らは愛を基にして能率のよい経営のやり方を発展させました。彼らは家庭で何をせねばならぬかを知っていました。また家事をするについて誰が責任をもつべきかを知っており、また仕事をしている間にどのようにしたら愉快にやれるか知っていました。皿を洗ったりその他の家事を行うに当ってテストされた時間と動きとに関する科学的の報告はもちろんのこと、彼らの家族生活に関する話は、自分の仕事を一つの知的職業にしたいと思っている主婦にとって良い読みものになります。

今日は、どのような家庭の状態にもすすめることのできる家庭経営のはっきりした原則がいくつかあります。もしもこれらの原則を注意して守るなら、またこれらを上達するまで固く守るなら、毎年多くの収入がふえるにちがいありません。またその上お金で測ることのできないボーナス、または家に居てもらえる給料が入るにちがいありません。お金で評価のできない家族同志の信頼が強まり、幸福な安心感のある信頼がすべてを捧げている「家庭のマネージャー」たちにむくいられるにちがいありません。

これらの豊かな報酬を得るためには、工業的経営法の順序をひっくり返さなければなりません。家庭経営の中で最も大切なことは、第一に家族の中に幸福な関係が存在することであって、能率のよいわるいはその次に来ることであります。これは愛と誠実の感情が家庭に充ちみちて居ると、その家を訪問する誰でもこれを認識することができる、それが大切であるというのであります。

家族の一人一人がみなちがった計画の下に働いていても、いつも共同してやっている感じがします。家族の一人一人がほかの人たちのさいわいを心にかけている様子がいつもありありと目に見えています。家族同志の忠誠は強く、家族組織を軸としてあらゆることがそのまわりを廻っている団結の強さが見られます。それでありますから、私たちの家庭経営の学説は幸福健全な家庭関係からまず始まります。このような関係をうち立てるに役立つ「家庭の価値」は次にかかげる「家庭の採点テスト」に誌してあります。自分自身と家族とをこれらの「価値」について照り合せてみると、自分の家庭の能率をあげる科学的方法をとりあつかっている来月のレッスンに対する一層よい準備ができるにちがいありません。

**家庭の採点テスト**

**一、安全性**

a、毎月の支払に充分であり借金をしないだけの金があるという安全感がありますか。（然り）（幾分か）（否）

b、お金を倹約して賢明な使い方をして居り、予備の貯えもあるという心の平安がありますか（然り）（幾分か）（否）。

c、あらゆる取り引きをするにふさわしい、厳密な正直さと道義的信任とから来る高い信用度を

もっているという満足感がありますか。（然り）（幾分かも）（否）。

**二、健康**

a、欠くことのできない営養素を全部含んだ、良い献立の食事を毎日とっていますか。（然り）（幾分か）（否）。

b、あなたの実庭は、毎日の要求を満すために心に養いを与え霊を高める愛を基としていますか（然り）（幾分か）（否）。

c、あなたの家庭は、健全な家庭生活を営むための清潔な秩序ある適切な環境になっていますか（然り）（幾分か）（否）。

**三、安楽さ。**

a、あなたの家は寒い日に暖く感じさせ、暑い日に涼しく感じさせ、すべての人がくつろぎと休息とを得てまた元気を回復させる所ですか。（然り）（幾分）（否）。

四、**プライバシー（自分だけの場所）**

たとえせまい片隅、たんすの置いてある隅であっても、厳密に自分一人の場所、他人の侵入をゆるさない場所を家族の一人一人がもっていますか。（然り）（幾分か）（否）。

**五、友だち**

食事の時、家族の夕べの時、またたくべつの場合に家族一同の楽しみと歓待をわけ与える隣人愛があなたの家にありますか。（然り）（幾分か）（否）。

**六、便利**

仕事と活動がたやすく行われるように計画してある家ですか。（然り）（幾分か）（否）。

**七、趣味**

家に居る時間の多くを占める音楽、美術、読書、蒐集、愛玩用動物、手芸などに特別興味をもっていますか。（然り）（幾分か）（否）。

**八、宗教的活動**

a、家族の祈り、一人一人の祈り食事のときの祝福、聖典を読むことなどをしますか。（然り）（幾分か）（否）。

b、教会の集りへ出席すること、教会内での活動などに対して計画を立てますか。（然り）（幾分か）（否）。

c、先祖の探求、自伝を書くこと「覚えの書」「真理の宝」などをつくることを実行していますか。（然り）（幾分か）（否）。

**九、教育、文化に対する抱負**

a、家族の一人一人が豊かな生活を送るため十分な教育を受けさせていますか。（然り）（幾分か）（否）。

b、家族の者が世界とそこに住む人々についてもっと知るために家族旅行や遠足をしていますか（これは公園や博物館へ行くことでもよろしい）（然り）（幾分か）（否）。

c、家族音楽会や書籍の批評をする機会をもつために、家に書物やレコードを備えていますか。（然り）（幾分か）（否）。

**十、美しくするための備え**

a、何か良いものをつくり出す努力によって家を美しくしていますか。（然り）（幾分か）（否）。

b、小ざっぱり清潔に見えて、また働らくために便利な、みりよくのある服をつけていますか。（然り）（幾分か）（否）。

## 料理

横浜支部扶助協会

シューマイ　五人分

皮……これは市販されているものを使う。

家庭で作る場合

一五〇～二〇〇g

強力粉

八〇g

塩

少量

温湯

大匙一杯

打粉

小麦粉と塩をふるい微温湯を加えて練り耳たぶの柔かさまでこねる（これはよくこねる程よい）（これをめん棒で打粉をしながら紙位の薄さにのばしこれを七～八センチ位角に切る。

中身

豚ひき肉　三〇〇g

玉ねぎ　一個

生姜のみじん切　小匙一

醤油　小匙½

糖　大匙½

砂糖　一杯

キャベツ（又は白菜）一～二枚

あればかんずめか、ゆでた貝柱のほぐしかたものか、えびのすり身、又はかにのほぐしたものを入れると味がよくなる。一段とよくなる。又グリーンピースを上にのせて青味をつけてもよい。キャベツは熱湯でさっとゆでいて固くなる。

水気を切りみじん切りにして固くしぼる。

片栗粉を全部混ぜ合わせ、ひき肉とみじん切りにしたものを大皿に布巾をひくまとめて片で包む。

蒸器に並べる。

おとにえる。

蒸す。

かおとに油を塗ってこれに蒸す。

て、十五分位蒸す。

尚、小麦粉の皮の変わりに、もち米を一時間位、水に浸してからざるにあげて、水気を切っておらざるだに丸めて合わせ、ひき肉をもちきの上にこころがした肉を切ってくまぶしのこれを蒸していて同じようにくに戴くわっていますこのもの変わっています。こうこのマイ言わず江米丸子にはイユワンズ）と言い丸ます。（チャミ

# 伝道本部だより

バプテスマ　一九六二年六月

**阿倍野**
後藤和子
永山富子
成瀬洋子
岡本昭

**旭川**
盛永久美子
佐藤紀代子

**群馬**
新谷節雄

**新潟**
石崎るり子
武田紀子
渡辺忠男

**西の宮**
川村稜威雄
西田春江
児玉由利子

**岡町**
福本要一
長谷川綾子
堀尾春子

**室蘭**
能谷茂雄
笠原由満子
平井由
川上悦子
三木健次
小田公弘
岡部成子
長田康道
高村美恵子

**小樽**
山崎広子
田中克己
藤井律江
後藤光子
石黒和夫
伊藤寿彦
三上京子
新野玲子
新野友子
西村勝広
西沢治史
西沢静重
佐々木雅啓
西沢喜代美
芝延
中尾吉
三上勝世
尾春子
堀尾新
長谷川綾子
福本要一
岡町
西田春江
西田利子
川村稜威雄
渡辺忠男
武田紀子
石崎るり子
新潟
長田康道
岡部成子
小田公弘
三木健次
川上悦子
笠原満
平井由
能谷茂雄
室蘭
児玉伯子
岡山
田畑治子
高橋ハルエ
高橋日出子
高橋安三
高橋勇司
浅香良太
札幌
後藤順子
今井律子
前田昌彦
中島由紀子
佐藤義紀
砂川愛子
和田武
東京中央
笛木俶子
藤岡健夫
又吉栄子
森千鶴子
中島信武
佐藤幸子
伊藤なみえ子
竹原健
戸川一
若林勝
安永宣子
東京北
嶋田伊律子
竹内勝利
東京南
タケグチ
カズフミ
シマダ
ジュンコ
セキグチ
カツユキ
トクヒデアキ
日下部政子
中村幸雄
大場隆
奥出真佐子
佐藤善昭
矢島仁美
東京西
広沢久美子
岩瀬正樹
前田忠久
菅野美那子
吉田総恵
平米佳邦
伊藤栄植
高井康宏
楠元孝平
西貴子
志村正子
石井和子
刈谷京子
小島澄子
中本一光
シマ
マサヒロ
澄川
服部掠
田部
戸川
小川
植吉
宮金
宇津嘉久
玉木
玉城
宮里
金城
新垣
普天間
亀島喜
宮平里
西田平
太良
大域
平名
上地
識
山域
上川
玉城
伊差
伊差
我部
座波
上地
長嶺
那覇
吉本
植松
戸田
小川
服部
澄川
和之
光明
俊三
洋雄
文子
昭
とく子
安恵子
福松
和江
勝江
春子
清子
ヨシ子
志玲美子
ヨシ子
和子
伴子
ル子
幸子
郁子
千鶴子
秀子
和子
浩子
皓子
貞一之
政勝子
和子
尚子
雅夫
ヨシ子弓
広子
ヨシ子
待子

## 宣教師の移動

デービッド・ジョーン・プルダン長老
ビッド・オストラリヤより七月三十日
ユジーン・T・大島長老
那覇支部・M・ピーター
ジェームス・巡回宣教師
ロバート・ペイジ長老
柳井支部・フィルモア長老
ウェクド・巡回宣教師
東京南支部・エガートセン長老
ラリズ・渡辺長老　普天
間支部・ダグラス・トーマス長老　福
岡支部・ハイニー・ピーター長老
東京北支部・デイビッド・ジョーン・プ
ウルデイン長老・ヒートウン長老
東京北支部・サドラー長老　群
東京支部・ケン・ミカミ姉妹　広島
馬支部・スミコ・ミカミ姉妹　広島
ボルス支部・ライマナ長老　金
沢支部・ギンブル姉妹
ルス支部・ギル長老　東
京都支部・ディビッド長老
京東支部・ロナルド・ジョージ長老
東京中央支部・パルマ長老　仙
台支部・アルビン・パルマ長老
アルノトロフ長老　岡町支部

# GOSPEL IN ENGLISH (Eigo no Fukuin)

1. **"Oh, nuts!" mumbled Marty. "Saturday, and it's raining!"**
   Doyōbi (to yū noni) amefuri (nante). Kudaranai wa, to Marty ga butsu butsu ii mashita.

2. **She reached from her bed and lifted the curtain.**
   Marty wa betto kara te wo nobashite kāten wo agemashita.

3. **Sure enough, left-over April showers were spilling from some very dark clouds and everything looked gloomy.**
   Omotta tōri, (mō jiki ga sugita hazu nanoni) mada nokkotte iru shigatsu no yūdachi (niwaka ame) ga, makkuro na kumo kara zā zā ochite ite, arayuru mono ga usu kurakute in-utsu ni mie mashita.

4. **"Now Joyce and I can't go on our hike."**
   Mā, Joyce to watashi wa haikingu ni yuke naiwa.

5. **Marty sighed as she reached for her gray jumper and black sweater.**
   Marty wa jibun no haiiro no janpā to kuro no sētā wo torō to shinagara tameiki wo tsukimashita.

6. **"Just matches the day," she thought, "and my mood."**
   Kono (amefuri no) hi nimo, watashi no kibun nimo chōdo niau wa ne, to Marty wa omoi mashita.

7. **In the next room Marty heard her little sister begin to sing. "Jesus wants for a sunbeam……"**
   Marty wa tonari no heya de imōto ga "Hikari to naru yō ni Esu-sama yū…" to utai hajimeru nowo kiki mashita.

8. **"What a silly song," she thought, "people can't be sunbeams!"**
   "Nante baka rashii uta nandarō, ningen wa hino hikari ni nareya shinaiwa" to Marty wa omoi mashita.

9. **Marty scowled at the zipper on her jumper. It was stuck.**
   Marty wa jibun no janpā ni tsuite iru zippā wo nirami tsuke

mashita. Zipper wa hikkakari mashita.

10. **She gave it a hasty jerk and it pinched her finger. Tears came to her eyes.**

Marty ga sono jippā wo sekkachi ni gui to hikuto, yubi ga hasamare mashita. Marty no ryōhō no me ni namida ga ukabi mashita.

11. **"……to shine for Him each day," sang Susie.**

Susie wa "Mainichi Esu sama no tame ni hikari to naru yōni…" to utai mashita.

12. **Marty sat on the bed and wiped her eyes with a corner of the sheet.**

Marty wa betto no ue ni suwatte, (jibun no suwatte iru futon no) shītsu no kata sumi de ryōhō no me wo nugui mashita.

13. **"The only thing about me that shines are my two red eyes," she sniffled.**

"Hikari to naru mono de watashi no mochiawasete iru nowa, akaku natta watashi no futatsu no me dake dawa," to Marty wa hana wo tsumarasete ii mashita.

14. **But she found herself listening to the song and hoping Susie would keep singing.**

Shikashi Marty wa, Susie no utau uta ni mimi wo katamukete, Susie ga uta wo utai tsuzukete hoshii to omotte iru jibun ni ki ga tsuki mashita.

15. **As if Susie read her thought she did commence the song and some of the words caught in Marty's mind.**

Susie wa Marty no kangae wo yomittota kano yōni, ano uta wo utai hajime mashita ga, sono uta no kotoba no aru mono ga Marty no kokoro ni shikkari nokori mashita.

16. **"A sunbeam, a sunbeam, Jesus wants me for a sunbeam," continued Susie.**

"Hikari, hikari, hikari to naru yōni Esu sama yū," to Susie ga tsuzuke mashita.

wo miyo).

10. In an age which denies and sneers at the lessons of yesterday and mistrusts the future, you must humbly seek Divine guidance else your great expectations will be engulfed in deep disillusionment.

11. A sense of relationship and co-partnership with God involves the concept of universal brotherhood and that will help to develope intelligent tolerance, open-mindedness, and good-natured optimism.

12. Life is really a battle between fear and faith, pessimism and optimism. Fear and pessimism paralyze men with skepticism and futility.

13. One must have a sense of humor to be an optimist in times like these. And you young women will need a sense of humor if you marry these young men and try to live with them.

14. Golden Kimball once said in a conference, "The Lord himself must like a joke or He wouldn't have made some of you people." But your good humor must be real, not simulated.

15. Let your smiles come from the heart and they will become contagious. You may see men on the street any day whose laugh is only a frozen grin with nothing in it but teeth.

16. Men without humor tend to forget their source, lose sight of their goal, and with no lubrication in their mental crankshafts, they must drop out of the race.

17. Lincoln said, "Good humor is the oxygen of the soul." And someone paraphrased, "The surly bird catches the germ."

---

in a conference (wagakyōkai no taikaide).

# GOSPEL IN ENGLISH (Eigo no Fukuin)

1. Our individual dignity and self respect are based upon, and our hopes and ambitions are justified by the fact that we are the offspring of Deity.

2. You can not afford to forget that fact. It is permanently, unavoidably, and sometimes painfully true.

3. That relationship makes it impossible to do wrong and feel right.

4. Sin and evil are repugnant to our inner, better selves. Wickedness never was happiness.

5. Our goal is eternities ahead and if we would keep on the beam we must keep contact with the tower.

6. To paraphrase a familiar hymn, do not under any circumstances forget to pray.

7. We need this balm of Gilead at the gates of every day.

8. When sore trails come upon you, or your soul is full of sorrow, when your heart is filled with anger and you need grace to forgive another, in fact, in all of life's vicissitudes, you will need the help and comfort which come from communion with Him who is your source and destiny.

9. If we keep this contact with Divinity it will be a constant reminder of our derived and immortal nature, our participative role, our divine source and destiny, and will enable us to retain our sense of purpose and direction.

---

the offspring of Deity (ningen no rei wa mina chichi naru Kami kara umareta mono de aru). beam (hōgaku wo shiraseru denpa ··· tadashii michi). the tower (hōgaku wo shiraseru denpa wo dasu mudendai ··· Kami no koto). balm of Gilead (sanbika dai 58 "Heya wo deru maeni"

## 編集後記

こよみの上で秋に入ったせいでしょうか。朝夕涼しい風が吹くようになりました。秋につきものの台風が、どういうものか今年は夏の中頃から頻繁にやって来ます。各地の兄弟姉妹のみなさまの所に台風の被害はありませんでしたでしょうか。被害を受けられた方がありますなら、一日も早く復興されるようお祈りしております。

さて、物価が日に日に上っていくのは一般社会の今日の現象ですが、「他山の石」とながめていました「聖徒の道」も印刷費の値上りや、製本、用紙代、組版代の値上りで一部原価五十四円ということになって来ました。

しかし現在各支部で売っている価格は五十円で大変に不合理な状態です。先般開かれた二回にわたる編集委員会にこの不合理な点が議題に出され、多数の委員と論議をつくし、現状、一部原価五十四円を五十円で売る不合理をなくし、またこの際一層の発展をとげる上にも、消極的に紙質を落すとか、頁数を減す等という方針は取らず、積極的に、紙質をトップコートと良くし、頁数を八頁増し、なを採算の合う線を出そうという結論が出されました。その結果、一部定価七十円を一応決定し、伝道部長のお考えを聞くことになり、その認可を得ました。

なお一年予約、半年予約は送料を付けます

半年　三十六円、一年　七十二円

現在で四十八万七千四百六円という大きな赤字を生み出しています。今のままでは、価格が上ったことで、一層赤字が増す心配も出てきます。しかし私たちが「聖徒の道」の性格をよく考え、北部極東で神様の真の御福音をのべ伝える唯一の月刊雑誌であることを認識し、なを努力するならば、必ず道が開けてくると確信しています。各支部の支部役員のみなさま、宣教師のみなさまの一層の努力を期待しております。

（小林）

## 編集日記

八月×日　柱の寒暖計の目盛が、無表情にどんどん上って三十何度をさす暑い編集室に、夏期休暇がよほど楽しかったか、まだはっきりしない顔でK編集委員、顔を出す。もう九月号の原稿が山のように、積まれている。編集委員会で、「聖徒の道」の値上が決まり、伝道部長の承認を得れば、紙質も良くなり頁数も多くなるので、編集の仕事が以前より時間がかかるはず。彼はそれを知ってか知らずかのんきそうに仕事をはじめる。

八月×日　割りつけが終り印刷屋に原稿を渡す。伝道部長の正式の許可が出て、頁数が八頁増え、今月号は「神殿を訪ねて」の特集としてほとんどの人に知られていない神殿内部の写真をのせる。

八月×日　初校が印刷屋より渡される。いつもより、やはり頁数が増えただけ時間がかかる。原稿の〆切を早めにしなければと校正をしながら相談しあう。

八月×日　再校を渡し、あとは製本を待つ。紙質が良くなったのできっと写真がきれいに出ることと期待する。

**○原稿募集**

投稿を大いに歓迎しますが、送り先きは、伝道本部でなく東京西支部内「聖徒の道」編集部にお願いします。原稿だけでなく、企画を提案してください。機知にとんだ斬新なアイデアーを待っております。

カット絵、季節の芸術写真の募集。カット絵は黒インク使用、写真は少なくともキャビネ版でお送り下さい。トップコートというアート紙に近い紙を使用しますのであなたの芸術的手腕が大いにはっきできると思います。

**○日曜学校ガイドを今月都合に依り休みます**


月刊「聖徒の道」第六巻第八号

一九六二年九月一日発行

実価　一カ年　九一二円〒共

半カ年　四五六円〒共

一部　七十円

編集兼発行人　ダワエン・N・アンダーセン

発行所　東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

# 図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本……1100円

教義と聖約
高価なる真珠　合本……300円

モルモン経（新訳）……200円
信仰箇条の研究……330円
モルモンとは？（新版）……150円
完成への道……200円
初等協会教科書……150円
総合聖句の手引……150円
日本系図探究要覧……100円
アロン神権者用学科課程……150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
「モルモン経の読み方の手引」……200円
ナザレのイエス……100円
正しい日本史……100円
家督権の祝福……100円
扶助協会手引……50円
求道者教育法……120円

## 日曜学校用

宗教と生活Ⅱ……150円
回復された神の教会……100円
福音の実践……150円
聖典中の指導者……150円
我等の標準聖典……200円
古代の使徒……150円
福音の紹介……200円
シオン山の救い手たち……200円
教義と聖約の教え……200円

## MIA用

生活の目標……150円
モルモン経研究ガイド……100円
MIA・エンサイン・ローレルの手引……150円
演説が上手になる法……150円

## 讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……400円
子等は歌う……100円
レクリェーション歌集……400円

……注文は各支部長へ……

# 支部所在地

**北海道地方部**

旭川　旭川市八条五丁目
MIA集会場　旭川公会堂

室蘭　室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽　小樽市富岡町一ノ三五
電話（二—八二二四）

札幌　札幌市北二条西二四丁目

**東中央地方部**

群馬　高崎市並榎町二七五

甲府　甲府市山田町六三

松本　松本市同心町六一二

新潟　新潟市中大畑町五五七　金井方
電話（二—八六六〇）

仙台　仙台市光禅寺通り二八
電話（五—〇八九七）

東京中央　東京都渋谷区八幡通一ノ三四
電話（四〇八—三三〇七）

東京北　東京都豊島区高田本町二ノ一四八七
集会場　日曜学校　武蔵野ドレメ
MIA　徳川生物研究所

東京東支部　東京都江戸川区小岩町四—一七五〇

東京南　東京都大田区南千束町二四九
電話（七八二—六一三一）

東京西　東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二—四〇一〇）

山形　山形市八日市八五〇

横浜　横浜市港北区篠原町二九
電話（四九—八七七二）

**西中央地方部**

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八

福岡　福岡市東薬院二ノ四〇

広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
電話（三—六一二五）

金沢　金沢市成瀬町二ノ四　野田方
集会場　農業センター

京都　京都市左京区松ケ崎桜木町一四

名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三—四二一〇）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五—〇四二一）

岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八

岡山　岡山市浜字下六ノ坪五五三ノ四

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六—二六〇二）

柳井　山口県柳井市今市三九一

**沖縄地方部**

普天間　沖縄宣野湾村野嵩区三二八

那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

聖徒の道
一九五八年三月十七日　第三種郵便物認可第六巻第九号
振替口座東京七六二二六番
発行人　ダワエン・N・アンダーセン
編集人
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会　北部極東伝道部　東京都港区麻布広尾町十四